

学校団体による 博物館活用 の手引き



福島県立博物館

学校団体による博物館利用のしかた

県内の学校団体に対して、以下のような利用コースを設定して見学学習を効果的なものにする取り組みを行っています。これらのプログラムは学校団体が一斉入館する際に利用いただけます。

◆団体利用で選択できるコース

利用コースは滞在時間と利用方法によって以下のようなものがあり、学校団体の来館目的にあわせてコースを選択してもらいます。

【A・Bコース】

学校が所在する市町村の資料に特化した見学学習コースで、博物館展示資料もしくは市町村の特徴的な資料をもとに学習を組み立てていきます。滞在時間等によりAコースとBコースの2種類があります。各学校団体との事前打ち合わせを行い、学校団体のニーズに応じたコース内容にして実施します。

【C・Dコース】

該当市町村など地域を特定せず、教科書の学習内容を補完することを目的にするもので、福島県内の特徴的な展示資料を中心に県内の各時代のように学習シートを利用して見学学習を進めるコースです。滞在時間等によりCコースとDコースの2種類があります。該当市町村など地域を限った学習と組み合わせて実施することも可能です。

【Eコース】

館内オリエンテーリングで展示室内を探検しながら歴史学習を進めることができます。

【Fコース】

既存のA～Eコース以外の利用のしかたを希望する学校へ対応するコースです。学校団体の利用目的や利用方法に関する事前相談から始め、学校団体の希望に応じたコースを作成していきます。

教科書の学習内容を補完することを目的に博物館資料をさわったり、操作したりする体験活動などを行えます。博物館での活動を通して、既習事項の深化・補充を行います。

◆グループ見学への対応

最近増えている班別行動などの小規模グループ団体の展示見学については、個別にその都度対応することが難しいため、上記のプログラムは利用できません。

班別行動の見学場所の一つとして当館を利用する場合には、HPからダウンロードした学習シート等を持参のうえ、主体的に見学学習が進められるようにご配慮ください。

展示室内には展示解説員が配置されていますので、疑問な点などは展示室内にいる展示解説員に質問するなどして学習を進めてください。

◆班別活動と組み合わせた上手な利用方法

班別行動を組み合わせ博物館見学を計画する学校団体は、班別行動の集合場所を博物館にして一斉入館する方法や、博物館の一斉利用の後、班別行動に移るなどの方法をご検討いただくと、上記プログラムも利用することが可能になります。

＜学校団体利用コース一覧＞

◆A（市町村 60分）コース

A-1 【市町村の歴史】(30分)+【展示室探検】(30分)

- ・学校所在市町村に関係する博物館展示資料等を使って、学校のある市町村の歴史の特徴をパワーポイント教材を使って学習する。【市町村の歴史】
- ・来館前に配布される学習シートを使用して展示室内で調べ学習を進める。【展示室探検】

A-2 【展示室探検】(60分)

- ・来館前に配布される学習シートを使用して展示室内で調べ学習を進める。【展示室探検】

◆B（市町村 90分）コース

B-1 【市町村の歴史】(30分)+【展示室探検】(60分)

- ・学校所在市町村に関係する博物館展示資料等を使って、学校のある市町村の歴史の特徴をパワーポイント教材を使って学習する。【市町村の歴史】
- ・来館前に配布される学習シートを使用して展示室内で調べ学習を進める。【展示室探検】

B-2 【体験学習】(60分)+【展示室探検】(30分)

- ・勾玉製作による古墳時代学習の深化など、教科書での学習の発展教材として体験を通じた学習を進める。【体験学習】
- ・来館前に配布される学習シートを使用して展示室内で調べ学習を進める。【展示室探検】

◆C（県 60分）コース

【県の歴史】(30分)+【展示室探検】(30分)

- ・博物館展示資料等を使って、福島県の歴史の特徴をパワーポイント教材を使って学習する。【県の歴史】
- ・来館前に配布される学習シートを使用して展示室内で調べ学習を進める。【展示室探検】

◆D（県 90分）コース

D-1 【県の歴史】(30分)+【展示室探検】(60分)

- ・博物館展示資料等を使って、福島県の歴史の特徴をパワーポイント教材を使って学習する。【県の歴史】
- ・来館前に配布される学習シートを使用して展示室内で調べ学習を進める。【展示室探検】

D-2 【県の歴史】(30分) + 【市町村の歴史】(30分)+【展示室探検】(30~60分)

- ・博物館展示資料等を使って、福島県の歴史の特徴をパワーポイント教材を使って学習する。【県の歴史】
- ・学校所在市町村に関係する博物館展示資料等を使って、学校のある市町村の歴史の特徴をパワーポイント教材を使って学習する。【市町村の歴史】
- ・来館前に配布される学習シートを使用して展示室内で調べ学習を進める。【展示室探検】

◆E（館内オリエンテーリング）コース

班別で探検指示カードをもとに展示室をオリエンテーリング形式で見学し、調べ学習をする。

◆F（オリジナル相談）コース

学校との事前相談をもとに実施されるオーダーメイドの授業、または体験学習活動

1 市町村の歴史 解説スライド資料

(A・B・Dコース)

二つの川俣城の位置と交通路



室町時代の川俣町

- ◆ **伊達政宗の南方進出の拠点**
 天正13年(1585) 8月
 川俣城に本陣を置く
 小手森城(旧東和町) 陥落
 同年 9月
 小浜城(旧岩代町) 陥落→大内氏を攻略
- 天正14年(1586) 4月
 二本松城(二本松市) 陥落→畠山氏滅亡
- 天正17年(1589) 7月
 磨上原合戦(磐梯町) 勝利→蘆名氏を攻略
 南奥州(東北地方南半) 制圧

江戸時代の川俣町

- ◆ 川俣町は何藩の領地だったの？
 ・ 県北地方は県内でも複雑な地域
 ・ 福島藩・幕府領・下手渡藩・梁川藩
 その他の藩分領が複雑に入り組む地域
 ・ 幕府領には**代官所**が置かれる
 桑折・岡(伊達)・川俣・梁川代官所
- 伊達地方に幕府領が多い→なぜ？

信夫・伊達地方は養蚕の本場

- ◆ 信達地方の**蚕種**＝**全国ブランドの優良品**
 幕末の横浜開港後
 ヨーロッパに向けて大量に輸出
- ◆ 伊達地方の**生糸生産の発展**
 蚕種とならんで**全国屈指の生産量**
- ◆ 伊達地方の養蚕業の**特産地化・専門化**
 阿武隈川沿い → 桑と蚕種
 月舘や霊山掛田 → 生糸
 川俣や飯野 → 絹織物
 保原 → 真綿

川俣における絹織物生産の進展

- ◆ 文政年間(1820ごろ) 町飯坂
 機織り戸数 **95/300戸**
- ◆ 江戸の豪商(三井)が大量買い付け
 毎年9月の春日神社祭礼の時
 →平均**2万反以上**の取引
 ※幕末には6万反以上
- ◆ 江戸鋳物師 粉川松之助の鋳造工房
 の発見(河股城跡) → **江戸職人を招致**

明治時代の川俣町を考える

- ◆ 日本の**近代化**を支えた**蚕糸業**
 元者 松方正義 伯爵が明治天皇に説明した言葉
 「彼方に見ゆる軍艦も 此方に敷ける鉄道
 も 皆蚕糸の力によりて製作せられたり」
- ◆ 明治24年(1891)の府県別繭生産高
 第1位 長野県 第2位 群馬県
 第3位 **福島県**
 ※伊達郡の繭生産量は**県内生産量の
 約1/4(約1,200 t)**

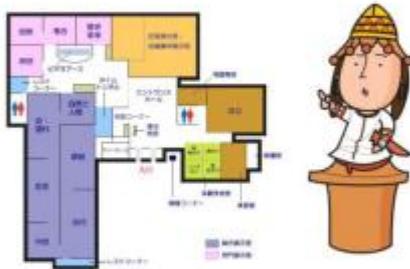
◆川俣織物の近代化(1)

- ◆川俣羽二重の輸出増加
町内は織機4台以下の小規模工場
受注が増加しても量産体制が整わない
→安価で使いやすい力織機の需要増
- ◆大橋式力織機の発明
明治39年(1906)
新中町の大橋哲弥と息子3兄弟
新しい力織機の開発

◆川俣織物の近代化(2)

- ◆川俣地方の発電開始
明治40年(1907)川俣電気株式会社設立
→電力による力織機工場の普及
明治42年(1909)発電開始
(伊達郡内では川俣と保原のみ)
川俣織機工業は全国に先駆けて工場制
工業の時代が到来→織物の町として発展
福井・金沢と並ぶ全国屈指の羽二重産地

川俣町に関する資料を
展示室の中から探そう！



探険の手がかり:コーナー表示



【平安時代】9 丸鞠／川俣町 南前遺跡
[B-5 陸奥国の成立]



【平安時代】10 鉄鉢模倣土師器／川俣町
梅窪遺跡 [B-7 在地の仏教]



【江戸時代】 14 陸奥国信夫伊達惣領検地
屏風 [D-1 奥羽仕置と諸藩の成立]



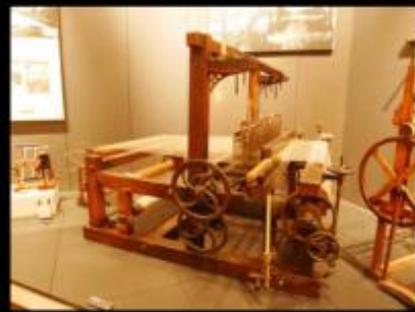
【江戸時代】 15 わらだ廻状
[D-9 ゆれうごく封建社会]



【明治時代】 19 生糸商標
[E-6 日本の花形産業]



【明治時代】 21 大橋式織機
[E-6 日本の花形産業]



【昭和時代】 23 木炭バス
[E-7 15年戦争下の生活]



2 展示室探検 (市町村用) 学習シート

(A・B・Dコース)

【児童用課題】 県立博物館で調べてみよう！

◆調べてみようシート使い方

- 1 「おもしろそうだな！」と思う問題を切って、ノートのパージの先頭に貼ります。
- 2 1ページに1問ずつ問題を貼り、その下に調べたことを書きます。
- 3 ノートが一番下には、疑問に思ったことや、もっと調べたいことを書きます。

さて、問題に取り上げられている資料はどんなものでしょうか？ それぞれの資料が博物館でみんなに会えるのを待っています。 お楽しみに！

【縄文時代】

1 土偶（重要文化財）／福島市飯坂湯野 上岡遺跡 [A-7 信仰と墓地]

これは縄文時代の土偶です。土偶は縄文人がお祈りをする時に使った道具と考えられています。

- ①学校に帰ってから友だちに教えられるように土偶をスケッチして、気づいたことを書き込もう。
- ②この土偶が表現しているのは、男性、それとも女性でしょうか？また、どんなところにその特徴がよく表れていますか？
- ③この土偶は何をしているところを表していると思いますか。推理してみてください。

【飛鳥時代】

2 素弁蓮華紋軒丸瓦／福島市腰浜町 腰浜廃寺跡 [B-7 在地の仏教]

これは、大化の改新の少し後に作られた中通り地方最古の瓦です。このころの農民は堅穴住居に住んでいたため、瓦を葺いているのは特別な建物でした。

- ①学校に帰ってから友だちに教えられるように瓦をスケッチして、気づいたことを書き込もう。
- ②瓦の中央に表されているのは、何をデザインした文様だと思いますか？
- ③この瓦は、どんな場所で使われていましたか？

【ヒント】この瓦が出土した遺跡の名前にヒントがありますよ。

【平安時代】

3 文字瓦「伴部福口」／福島市腰浜町 腰浜廃寺跡 [B-5 陸奥国の成立]

昔の瓦を調べると、人名や地名などが焼く前にへらで書かれたものが見られます。瓦の製作や運搬などに関わった人物や地域と関係していると考えられています。

- ①学校に帰ってから友だちに教えられるように瓦をスケッチして、気づいたことを書き込もう。
- ②この瓦に書かれている「伴部福口」は人名それとも地名、どちらでしょうか？
- ③お寺に使われた瓦は、どこで焼かれたと思いますか。予想を書いてみてください。

【この問題は展示室ではわかりません。「じょうもびあ宮畑」に行くと分かるよ！】

【平安時代】

4 土師器 杯／福島市御山 御山千軒遺跡 [B-6 公民の生活]

平安時代の豎穴住居を発掘するとこの器がよく発見されることから、日常の食器として使われたことがわかります。現在のお茶碗にあたるものです。

- ① 学校に帰ってから友だちに教えられるように土器をスケッチして、気づいたことを書き込もう。
- ② 器の外側に見える横の筋は、この器を作る時に使った道具の特徴をよく表すものです。この器を作る時に使った道具は何でしょうか？

【ヒント】現在のやきもの作りでも使われる道具です。

- ③ この土師器が器として工夫されている点は、どんなところでしょうか。よく観察して考えてみてください。

【ヒント】内側と外側の器の表面の状態や色に違いはありますか。

【平安時代】

5 土師器 高台杯／福島市御山 御山千軒遺跡 [B-6 公民の生活]

杯と同様に豎穴住居から発見されますが、平安時代でも少し新しい段階から流行し始めます。役所などで使われていた器の形が、しだいに農民にも流行しました。

- ① 学校に帰ってから友だちに教えられるように土器をスケッチして、気づいたことを書き込もう。
- ② 内側を見ると、器として使った時に何かがぶつかってできた窪みや傷がたくさん付いています。何がぶつかったのでしょうか？

- ③ 杯と高台杯を比べて、料理を盛り付けた時に豪華そうに見えるのはどちらでしょうか？

【平安時代】

6 須恵器 杯／福島市御山 御山千軒遺跡 [B-6 公民の生活]

須恵器は土師器と違って登り窯で焼かれるため、高温で硬く焼き締まっており、水漏れしにくい器です。古墳時代に渡来人によって朝鮮半島から作り方が伝わりました。

- ① 学校に帰ってから友だちに教えられるように土器をスケッチして、気づいたことを書き込もう。
- ② 器の外側に見える横の筋は、この器を作る時に使った道具の特徴をよく表すものです。この器を作る時に使った道具は何でしょうか？

【ヒント】現在のやきもの作りでも使われる道具です。

- ③ 杯は須恵器も土師器も同じような形と作り方をしているように見えますが、このような作り方で器をつくり始めたのはどちらが早いでしょうか？

【平安時代】

7 灰釉陶器 皿／福島市湯野 上岡堰下遺跡 [B-6 公民の生活]

現在と同じように釉薬をかけて焼き上げ、表面にガラス質の膜を付けたやきものです。須恵器よりも高級品だったため、農民の住居からはほとんど発見されません。

- ①学校に帰ってから友だちに教えられるように土器をスケッチして、気づいたことを書き込もう。
- ②器の内側をよく観察すると釉薬がかかっている範囲がわかります。どんな道具で釉薬を付けたと考えられますか？
- ③このやきものは現在のやきもののルーツになるものです。どこで作られたものでしょうか？【ヒント】現在でも、この地方はやきものの産地です。

【平安時代】

8 木製漆塗り皿／福島市御山 御山千軒遺跡 [B-6 公民の生活]

平安時代には土師器や須恵器と同じようにロクロを使って木の器も作られました。木の器は表面を削っただけでなく、漆を塗って漆器にするものも登場しました。

- ①学校に帰ってから友だちに教えられるように土器をスケッチして、気づいたことを書き込もう。
- ②表面をていねいに削っただけでなく、さらにその上から漆を塗って仕上げたのはなぜでしょうか？
- ③ロクロを使って作ると、どんな形の器が作りやすいですか？
【ヒント】ロクロは回転します。ぐるぐる回るのがロクロです。

【鎌倉時代】

9 信夫山出土品／福島市御山町 信夫山遺跡 [C-2 神仏習合の世界]

信夫山は鎌倉～江戸時代まで「武士の世の中」を通して、東北地方の人々の信仰の山でした。山のあちこちにお寺や神社がたくさんありました。

- ①学校に帰ってから友だちに教えられるように出土品をスケッチして、気づいたことを書き込もう。
- ②現在と違って金属でできた鏡があります。どんな形の鏡がありますか？
- ③真ん中に穴が開いた金属でできた丸いものがたくさん発見されています。これは何でしょうか？
【ヒント】現在でも同じようなものがあります。みなさんも持っているものです。

【鎌倉時代】

10 下鳥渡供養石塔（拓本）／福島市下鳥渡 陽泉寺 [C-2 神仏習合の世界]

亡くなった人の冥福を祈るために建てられた板状の石塔（板碑）です。中央に極楽浄土に住む
仏さま（阿弥陀如来）が彫られています。

- ①学校に帰ってから友だちに教えられるように石塔全体をスケッチして、気づいたことを書き込もう。
- ②仏さまは全部で何体彫られていますか？ また、仏さまは全員同じ姿をしていますか？
- ③極楽浄土に住む仏さまを彫ることは、どんな願いが込められていると考えられますか？

【江戸時代】

11 陸奥国信夫伊達惣領検地屏風 [D-1 奥羽仕置と諸藩の成立]

福島市北部～伊達郡・伊達市にかけての地域は、江戸時代の途中で米沢藩の領地から幕府
直轄地になりました。その地域のお米の取れ高を絵図で表したものです。

- ①屏風の絵には当時の村の名前が書かれています。ノートに全体の犬まかな形を書いて、村があつた犬まかな場所に村の名前を書いてください。
- ②この絵に描かれているのは、阿武隈川のどちらの方角の地域でしょうか？
【ヒント】絵に書かれた村の名前と同じ地名が、現在もたくさん残っているよ。
- ③村の名前が書かれていない「白抜き」の地域があります。この場所はなぜ「白抜き」になっているのでしょうか？
【ヒント】この絵図は幕府直轄地の様子を表したものです。

【江戸時代】

12 本内村絵図 [F-4 福島の河川]

鎌田小学校の近くの本内地区のようすを描いた江戸時代の絵図です。阿武隈川の流れが江戸
時代の中でも何度も大きく変わっていることがわかります。

- ①学校に帰ってから友だちに教えられるように阿武隈川の流れの変化を犬まかにスケッチして、気づいたことを書き込もう。
- ②阿武隈川の西側にも江戸時代の本内村の土地はあったでしょうか？
- ③川の流れが変わると、どの地域でも困ったことが起こり、江戸時代の村では必ず話し合いが行われました。どんな困りごとが起こったのでしょうか？

【江戸時代】

13 阿武隈川水路図 [F-4 福島の河川]

幕府の直轄地だった福島市北部周辺の年貢米を江戸に船で運ぶ道筋を表した絵図で、阿武隈川の詳しいようすが描かれています。

- ① 学校に帰ってから友だちに教えられるように水路図を大まかにスケッチして、気づいたことを書き込もう。
- ② 絵の中の赤い線は何を示していると考えられますか？
- ③ 絵の中央には展示してある木の枠と同じものが並べられた様子が描かれています。この木の枠は何のために使われたものでしょうか？

【明治時代】

14 福島事件高等法院傍聴筆記 [E-2 自由民権運動]

福島県の自由民権運動の中心人物であった河野広中は福島事件で逮捕され、裁判の結果、有罪となりました。裁判の経過は本で出版されるほど注目を集めました。

- ① 学校に帰ってから友だちに教えられるように本のさし絵を大まかにスケッチして、気づいたことを書き込もう。
- ② 左側に描かれている人たちの職業は何でしょうか？
- ③ 右側に描かれている人物は、ある有名な人物です。誰でしょうか？

【ヒント】福島県会議長を務めた福島県の自由民権運動の父と言われる人物です。

【明治時代】

15 福島県民会規則 [E-2 自由民権運動]

明治10年(1877)に県民の代表で政治を議論をする民会(現在の県議会)を開くための規則が河野広中らを中心に作られ、翌年、全国初の民会が福島県で開かれました。

- ① この規則の作成に関係した人物で河野広中以外に、どのような人物がいましたか？
- ② 上の答えの人物は、明治時代の福島県を代表する有名な事業の中心人物でもありました。この事業の名前は？ 【ヒント】最近、日本遺産になりました。
- ③ 福島県民会(現在の県議会)が始まったのが明治10年、帝国議会(現在の国会)が始まったのは明治23年です。どちらの議会が早く始まった？ <福島県 スゴイね!>

【明治時代】

16 列車運転時刻表 [E-5 庶民の生活]

東北本線は明治24年に全線開通し、東北地方と東京が1本の鉄道で結ばれるようになり、人と物を大量に運ぶことができる世の中になりました。

- ①東北本線の始発駅と終着駅を展示している時刻表から探してください。
- ②始発駅から終着駅までは、どのぐらいの時間がかかっていたでしょうか？
- ③東京の始発駅から福島駅の区間は、どのぐらい時間がかかっていたでしょうか？

【ヒント】現在の東京駅－福島駅間は、東北新幹線で約1時間30分ぐらいです。

【明治時代】

17 福島県岩代国信夫郡第一番学区福島小学校の図 [E-5 庶民の生活]

現在の市立福島第1小学校の明治17年のようすです。現在の小学校とは違った造りの建物で、当時は役所や学校などの公共施設は西洋風につくられていました。

- ①学校に帰ってから友だちに教えられるように校舎のようすを大まかにスケッチして、気づいたことを書き込もう。
- ②校舎は何階建てででしょうか？
- ③明治時代に、どうしてこのような西洋風の建物が建てられたのでしょうか？

【おまけ】桑折町や伊達市保原には、明治時代の西洋風建物の実物が残っています。

【明治時代】

18 旧福島中学校玄関の鬼瓦 [E-5 庶民の生活]

県立福島高校は戦前は福島中学校と呼ばれていました。戦前の福島中学校の校舎の玄関の屋根の上に飾られていた瓦で、屋根の大きさに応じて大きく作られています。

- ①学校に帰ってから友だちに教えられるように瓦を大まかにスケッチして、気づいたことを書き込もう。
- ②この鬼瓦は、いくつの部品からできているのでしょうか？
- ③この鬼瓦は作られた年と製作者の名前が刻まれています。いつ、誰が作った鬼瓦でしょうか？

【大正時代】

19 いろは別電話帳 [E-3 福島県の成立]

大正15年に発行された福島市内の電話帳です。大正時代には福島市内にも電話が広まっており、お店だけでなく個人で電話を持っている人がいたことがわかります。

- ① 仲間町にあった「たぬき」というお店の電話番号は何番ですか？
- ② 電話帳のしくみが分かるように「大光商店」から「れ之部」までを書き写しましょう。
- ③ このころの電話帳は個人と会社が別の冊子になっていましたか？

【昭和時代】

20 墨で消された教科書 [E-7 15年戦争下の生活]

太平洋戦争終戦後、新しい教育制度に変わりましたが、新しい教科書ができるまでは、不適切な軍国教育の内容の部分を墨で消した戦時中の教科書が使われました。

- ① 学校に帰ってから友だちに教えられるように墨塗り教科書を大まかにスケッチして、気づいたことを書き込もう。
- ② この教科書は小学4年生用の国語の教科書ですが、左上の部分には、このページに書かれていたお話の題名が墨で消されないで残っています。何というお話だったのでしょうか？
- ③ この教科書の左わきには、会津美里町に残っていた戦後の新しい教科書が展示されています。新しい教科書の名前は何ですか？

【昭和時代】

21 生活必需品購入帳 [E-7 15年戦争下の生活]

戦争が進むにつれ食料や衣料が不足し、物資を国が管理する配給制度になりました。購入帳や購入切符が無いと必要な物が買えない状況は戦後まで続きました。

- ① 学校に帰ってから友だちに教えられるように購入帳を大まかにスケッチして、気づいたことを書き込もう。
- ② この購入帳は、どこで発行したのですか？
- ③ 購入帳には有効期間があります。この購入帳の有効期間を書きましょう。

【昭和時代】

22 福島第一中学門札 [E-7 15年戦争下の生活]

戦後、現在の小学校—中学校—高等学校—大学という学校制度ができあがりました。これは戦後の昭和22年に福島第一中学校の門に掲げられていた門札です。

- ①学校に帰ってから友だちに教えられるように門札を大まかにスケッチして、気づいたことを書き込もう。
- ②右隣りには、福島市内の別な中学校の門札があります。どこの学校のものですか？
- ③左隣りには、現在は存在しない「まぼろしの中学校」の門札があります。何という学校ですか？

【昭和時代】

23 警戒警報表示板 [E-7 15年戦争下の生活]

現在のような校内放送がなかった昔の学校では、空襲警報などが出されると、学校内に知らせるために、決められた場所に表示板を掲示して知らせました。

- ①学校に帰ってから友だちに教えられるように表示板を大まかにスケッチして、気づいたことを書き込もう。
- ②この表示板は、どこの学校で使われていたものですか？
- ③空襲以外に、どんな警報があったのか、博物館から帰ったら調べてみよう。

【昭和時代】

24 木炭バス [E-7 15年戦争下の生活]

昭和13年に開業した当時の国営バス福浪線(福島—浪江)を走っていたものがモデルです。このバスは、ガソリンではなく木炭を燃料にして走っていました。

- ①学校に帰ってから友だちに教えられるようにバスを大まかにスケッチして、気づいたことを書き込みましょう。特にバスの後ろ側には今と違った装置が取り付けられているので、よく観察してスケッチしてみましょう。
- ②このバスは、お客さんがどれくらい乗れるのでしょうか？ イスの数などから推理してみましょう。
- ③このバスは、どうしてガソリンではなく、木炭を燃料にしていたのでしょうか？

【ヒント】乗客には、どんな人がいますか。その職業の人が活躍した時代です。

福島市ゆかりの県立博物館展示資料（教師用）

【縄文時代】

1 土偶（重要文化財）／福島市飯坂湯野 上岡遺跡 [A-7 信仰と墓地]

両手を組んで、坐っている姿の土偶。大きな乳房の表現や膨らんだ腹部から妊娠した女性を表していると考えられている。出産（座産）の姿と考える研究者もいる。



【飛鳥時代】

2 素弁蓮華紋軒丸瓦／福島市腰浜町 腰浜廃寺跡 [B-7 在地の仏教]

中通り地方最古の瓦を出土する腰浜廃寺跡の瓦は現在のところ7世紀後葉（大化の改新の少し後）のものと考えられている。中央に仏教の象徴の蓮の花の文様が付く。



【平安時代】

3 文字瓦「伴部福口」／福島市腰浜町 腰浜廃寺跡 [B-5 陸奥国の成立]

瓦の焼く前に表面にヘラで人名が書かれている。瓦が割れているため、名前の下の部分は不明。瓦を寺に寄進した人物の名前と考えられている。



4 土師器 杯／福島市御山 御山千軒遺跡 [B-6 公民の生活]

現在の茶碗のようにロクロを使って作られているため、器の表面に横に走るロクロ目の筋が付いている。内側の表面が黒く燻されてコーティングされている。



5 土師器 高台杯／福島市御山 御山千軒遺跡 [B-6 公民の生活]

底に台の付いた茶碗で、杯よりも高級品。展示している高台杯の内面には箸で突いた跡がたくさん見られ、このころ箸を使って食事をしていたことがわかる。



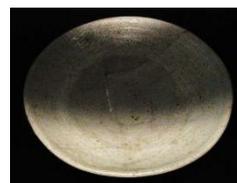
6 須恵器 杯／福島市御山 御山千軒遺跡 [B-6 公民の生活]

ロクロを使って作られている。登り窯で焼かれているため土師器より硬く焼きしまっている。ロクロは元来、須恵器の製作技術で、平安時代に土師器生産にも導入される。



7 灰釉陶器 皿／福島市御山 御山千軒遺跡 [B-6 公民の生活]

平安時代になると、現在のように釉薬をかけたやきものが広まり、ワラ灰を釉薬に使った食器が見られるようになる。県内では生産されておらず、当時の高級品である。



8 木製漆塗り皿／福島市御山 御山千軒遺跡 [B-6 公民の生活]

平安時代にはロクロを使った木製品の加工技術も発達し、白木や漆塗りの食器が見られる。漆塗り製品は主に役所や寺院などで発見され、高級品だったと考えられている。



【鎌倉時代】

9 信夫山出土品／福島市御山町 信夫山遺跡 [C-2 神仏習合の世界]

鎌倉～江戸時代には信夫山全域に多くの寺院があり、県北地方の信仰の中心地の一つでした。寺院の跡からは、儀式用に使った金属製の道具などが出土しています。



10 下鳥渡供養石塔 (拓本)／福島市下鳥渡 陽泉寺 [C-2 神仏習合の世界]

陽泉寺の境内にある板状の石塔 (板碑) で、中央に阿弥陀三尊 (阿弥陀如来・観音菩薩・勢至菩薩) 像が彫られている。碑の右側に正嘉2年(1258)の年号が刻まれている。



【江戸時代】

11 陸奥国信夫伊達惣領検地屏風 [D-1 奥羽仕置と諸藩の成立]

寛文4年(1664)に米沢藩から幕府直轄地になった信夫・伊達地方の検地結果を絵図に表し、阿武隈川を境に東西1対の屏風にしたもの。(展示物は川の東側部分)



12 本内村絵図 [F-4 福島の河川]

鎌田小学校学区にある本内地区の江戸時代の絵図。絵図を見比べると、江戸時代の中でも阿武隈川の流れが何度も大きく変わり、地域の様子が変わっていることがわかる。



13 阿武隈川水路図 [F-4 福島の河川]

幕府直轄地であった信夫・伊達地方から江戸に船を使って年貢米を運ぶために、阿武隈川を調査した結果を絵図に表したもの。船の航路が赤線で描かれている。



【明治時代】

14 福島事件高等法院傍聴筆記 [E-2 自由民権運動]

福島事件で逮捕された県会議長河野広中らの裁判は民衆の関心も高く、連日新聞で取り上げられ、裁判の翌月にはこのような冊子にまとめられ発刊されました。



15 福島県民会規則 [E-2 自由民権運動]

町村会・区会・県会という公選による会議の開催のため、明治10年(1877)に河野広中や中條政恒らによって制定されたもので、翌年全国初の民会が福島県で開かれた。



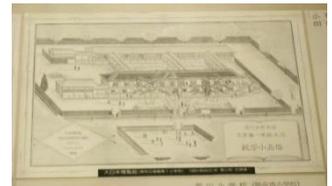
16 列車運転時刻表 [E-5 庶民の生活]

東北本線は明治24年(1891)に上野—青森間が全線開通し、東北交通の大動脈となった。徒歩で約1週間かかっていた東京—福島間が10時間弱で行けるようになった。



17 福島県岩代国信夫郡第一番学区福島小学校の図 [E-5 庶民の生活]

福島市立福島第1小学校の明治17年(1889)の様子。校舎は総二階建ての西洋風の校舎で、裏の平屋の校舎と渡り廊下で繋がっている。正面玄関は塔屋が設けられている。



18 旧福島中学校玄関の鬼瓦 [E-5 庶民の生活]

県立福島高校は明治31年(1898)に開校した福島県第三尋常中学校に始まり、明治34年(1901)に福島中学校に改称されている。鬼瓦は屋根の大きさに比例しており、福島中学校の玄関がいかに大きかったかがわかる。



【大正時代】

19 いろは別電話帳 [E-3 福島県の成立]

大正15年(1926)に発行された福島市内の電話帳。個人・企業が混じっているのは順に電話番号が並んでいる。名前の上の3ケタの数字が電話番号。



【昭和時代】

20 墨で消された教科書 [E-7 15年戦争下の生活]

昭和20年(1945)、終戦後に小学校で使われた教科書。戦後の新しい教育に馴染まない内容の部分はすべて墨を塗って消されている。



21 ^{せいかつひつじゆひんこうにゆうちよう}生活必需品購入帳 [E-7 ^{ねんせんそうか}15年戦争下の生活]

戦前から戦後にかけて慢性的な物資不足のため、商品を自由に購入することができず、購入帳や購入切符を使用した配給制であった。福島市役所で発行した購入帳



22 ^{けいかいけいほうひょうばん}警戒警報表示板 [E-7 ^{ねんせんそうか}15年戦争下の生活]

戦時中、空襲などの警戒警報が出された際に校内に掲げられた表示板。福島市立清明小学校で実際に使用していたもの。



23 ^{もくたん}木炭バス [E-7 ^{ねんせんそうか}15年戦争下の生活]

昭和13年(1938)に開業した省営バス(現 JR バス)福浪線のうち、浪江～川俣区間を走っていた「いすゞ BX40(12人乗り)」がモデル。ガソリンではなく木炭が燃料



24 ^{ふくしまだいいちゅうがっこうもんざ}福島第一中学校門札 [E-8 ^{せんご}戦後の社会・^{しやかい}変わりゆく社会]

戦後の昭和22年(1947)に使用されていた現福島市立福島第一中学校の校門に掲げられていた門札。



3 体験学習 メニュー一覧

(Bコース)

体験学習メニュー一覽 (Bコース)

【講座名】

- ①「原始・古代のワザに挑戦しよう」
- ②「化石にふれてみよう」
- ③「紙すきでハガキづくり」(春～夏)
- ④「昔の道具体験」(秋～冬)
- ⑤「度量衡の統一と農民の暮らし」

講座 No.	講座内容	講座対象	定員	所要時間	材料費
①	<p>【常設メニュー】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・石器で切る ・縄文の文様をつける ・土器の文様を写す(拓本) ・勾玉をつくる ・火おこし <p>【特別メニュー】</p> <p>その他の考古学に関する体験を相談に応じて実施します。</p>	小学校高学年～中学生	おおよそ 30 人以下	90 分程度	勾玉づくり 1 セット 200 円 ※その他の活動は無料
②	化石にさわってみたり、顕微鏡で微化石を観察したりします。	小学生～中学生	おおよそ 30 人以下	30 分程度	なし
③	ハガキづくりを通して、昔の手すき和紙ができる仕組みを学びます。	小学校高学年～一般	おおよそ 15 人以下	60 分程度	なし
④	<p>昔の道具を実際にさわりながら、使い方などについて学びます。石臼で豆を挽いたり、電気の無かった時代の道具など、相談に応じて道具を用意します。</p> <p>(※石臼体験では大豆を使用します。大豆アレルギー等の児童がいる場合は、ご配慮ください。)</p>	小学校中学年以上	おおよそ 30 人以下	30 分程度	なし
⑤	度量衡統一の歴史に関する話を聞き、枴で量ってみたり、俵の重さを体験したりします。	小学校高学年～中学生	おおよそ 20 人以下	30 分程度	なし

体験学習メニュー実施状況



昔の道具体験（石臼で大豆を挽く）



昔の道具体験（展示室で昔の道具にさわる）



原始・古代のワザに挑戦しよう（火おこし）



原始・古代のワザに挑戦しよう（勾玉作り）



化石にふれてみよう



度量衡の統一と農民の暮らし

4 福島県の歴史

解説P.P.資料

(C・Dコース)

<展示室探検のヒント>



福島県の歴史 を 展示室から探ろう！

福島最古の人類 (旧石器時代)



こんな石器を使っていました



こんな人が住んでいました



こんな動物を獲っていました



郡山で見つかった動物の一部です

縄文時代の家の秘密 (縄文時代)



このような家を何という？



家の骨組みをみると！



家の中をのぞいてみると！



床にあるのは何でしょう？

縄文時代のガイコツの謎 (縄文時代)



丸く集められているのは何でしょう？



どんな姿勢をしているの？



近づいてみると！



これは、何？

縄文時代の不思議なモノ！ (縄文時代)



この道具は杵に使うもの？



クルミ 今から約3000年前のもの

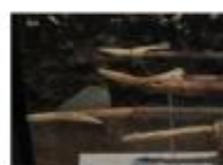


このきれいな石は？



黒くてネバネバしてるよ！

縄文時代の豆知識 (縄文時代)



これは何をさす道具？



ウルトラマンは縄文人？



縄文人の偉業は？



英語の読める縄文人？

何の仕事をしているの？ (弥生時代)



この人は何をしているの？



この道具は、何に使うの？



右手を見ると！



左手を見ると！

弥生人の必需品！ (弥生時代)



この土器に入っていたのは？



何に使う道具なの？



真ん中にある四角い部分は何？



木でできた道具もあるの？

弥生時代のコワ～い所 (弥生時代)



古野ヶ堂遺跡にもあったよ！



穴の中に土器がいっぱい！



細長い穴は何に使うの？



穴がいっぱい開いているよ！

この山の上にあるのは？ (古墳時代)



山の上になにか見えるよ？



真上から見ると、なにかの形に見えるよ！



この細長い2本の穴は何？

土の中からこんにちは！ (古墳時代)



この円鏡はUFO？



いろんなお宝が ザクザク！



埋まっている姿を復元すると！

1,300年前に命名された会津 (古墳時代)



遠く離れた双子の古墳 (古墳時代)



東北歴史の前方後円墳
(会津坂下町 井方古墳)



日本歴史の前方後円墳
(奈良県 葛城古墳)

古墳のルーツを探る！ (古墳時代)



四隅が飛び出すふしぎな形！



こちらから中へどうぞ！

↓
本当は、こんな形！



いろいろな形の古墳

いろいろな形の古墳 (古墳時代)



おしゃもじみだいな形だね！



これピラミッド？



おまんじゅうのお化け？



壘に穴がいっぱい 何の巣？

ハニワで表したものは？ (古墳時代)



男？女？ この楽器は何？



原山1号墳から発見された埴輪



動物がいるよ！



この二人 夫婦なの？

最新流行の輸入品！ (古墳時代)



ねずみ色の硬いやつ！



エプロン？ ベスト？ 何？



こちらは国産品です。



お台所の大革命！

アートなお墓をご覧ください (古墳時代)



原町でも！ (原山横穴墓)



有名な高松塚古墳の壁画です



双葉でも！ (瀬戸田横穴墓)



いわきでも！
(中田横穴墓)

王様のお屋敷は？ (古墳時代)



初めのころ(金澤市下町東照遺跡)



中ごろ(喜多市古墳遺跡)

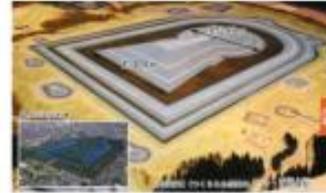


終わりのころ(白河市舟井中遺跡)



当時の姿(群馬県三ツ峠遺跡)

大仙古墳の豆知識 (古墳時代)



大きさは？



馬形埴輪



発見された棺(復元)



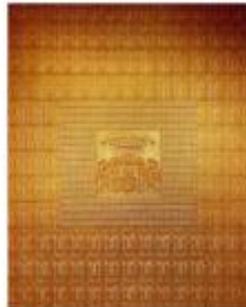
人物埴輪



藤原京がつけられたころ (飛鳥時代)



屋根瓦(山形市権左衛門寺跡)



復元されたせんじんの殿
(金箔が貼られたタイル)



お寺の建物(いわき市東井原寺跡)

こんなものがある場所は？ (奈良時代)



この建物は何に使うの？



こんなものが時々発見されるよ！



この仕事の必需品です



周りにもいろいろあるよ！

全国みんなでやってみよう (奈良時代)



この人はだれでしょうか？



こんなところに動めていました！



こんなものも作りました！



ふくしまでも行われました！

極楽浄土への切符 (平安時代)



この中に何が入っていたの？



三人一緒に動きます



教科書に出てくる有名な建物です



この人の職業は？

頼朝がやってきた！ (鎌倉時代)



地面が波打ってるよ！



守る側の武器は？



攻めているのは、どちらの軍？



これを着ている人を探せ！

武士の住まいを探る！ (室町時代)



栗川城で発見された建物(復元)



将軍の屋敷 (将中格外豪華)



領地の境付近につくられた城



大きな御殿風の建物

深く掘られた堀
一帯後に埋められて
いる

福島にやってきた天下人 (安土桃山時代)



この人は、誰の家来？



このお城を作った人は？



国道49号線沿いにもあるよ！



菊人形のお城も関係あるよ！

ちょっとお知らせ！ (江戸時代)



ここで何をやるの？



板に何か書かれているよ！



こんなところにあるの？



道路の真ん中だよ！いいの？

道具の進化を探る！ (江戸時代)



これは、何に使う道具？



とがった歯が付いている！



ぐるぐる回すレバーがあるよ！



網の所で何かするのかな？

町で見かけるこんなもの (江戸時代)



通りを歩いてみると！



何を知らせる看板？



どこに揚げられた看板？



こっちは、どこの看板？

会津藩の学校といえど？ (江戸時代)



敷地全体の図があります！



星に関係する場所です。



今の学校にもあるものです。



「子日く…」と声をそろえて！

みんなで団結して！ (江戸時代)



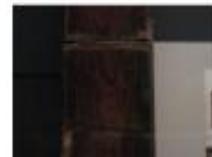
丸く字が書かれているよ！



この人物は何をした人？



柱をよく見ると！



ノコギリで切った痕がある！

時代を決めた戦いのゆくえ (江戸時代)



この戦いに関係した人です



当時、最新鋭の兵器です



城のまわりに旗がいっぱい！



逃けているのは誰？

ルーツを探ると意外な形！ (明治時代)



これは何の形でしょうか？



形がだんだん変化してきました



もう分かりましたね！



この当時の建物の看板です

ふくしま近代化の夜明け (明治時代)



たくさん水があるのは？



この人物は日本人？



この人が、がんばった！



この橋は、ただの橋じゃないよ！

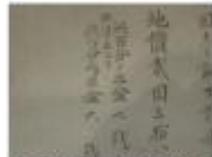
お米から〇〇に！ (明治時代)



この書類は何？



何かの値段が書いてあるよ！



「百分の三」って何の割合？



この書類を入れる箱です

明治政府の威信をかけて！ (明治時代)



これは何に使ったもの？



当時は、こんなでした！



この手紙を持っていきます



これをもって仕事に就きます

みんなの願いを伝える！ (明治時代)



何が行われるお知らせ？



この本の挿絵が示す事件は？



この事件に関係する人物です



この人は、どこにいたの？

ふくしま名産品のルーツ (明治時代)



この円盤は何に使うもの？



家の中のこんな場所にあるよ！



円盤の次は、この姿になります



こんな形のものが欲しいです

工場・機械・〇〇生産 (明治時代)



ここは、どこ？



何をずる建物？



この機械は何をするもの？



建物の中に機械がいっぱい

日本の近代化を支えた福島 (明治時代)



これは何の束？



ラベルを見ると！



こちらのラベルも、やっぱり！



どこに持っていくの？

どこで配られたもの？ (明治時代)



このキレイな輪は何の輪？



何語で書かれているの？

いつの時代も大切なもの (明治時代)



これは何？



中央の漢字に注目！



こんなものもありました！



紙と金属でできたものがあるよ！

謎の乗り物を探る！ (昭和時代)



この乗り物は何？



後ろに何か付いているよ！



後ろに乗っている人がセント



軍服を着ているということは？

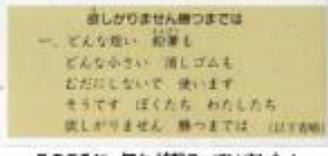
不足していたものは？ (昭和時代)



配給って何？



この切符がないと〇〇ません



このころに、何かが起こっていました！

学用品の昔と今 (昭和時代)



卒業証書の大きさは？



大きさを比べてみよう！



これでも本なの？



ランドセルの大きさは？

展示室探検に出発！

—きまりを守って楽しく見学—

- ◆展示室内は静かに歩きましょう。
- ◆展示物は貴重なものです。
さわら〇〇。よごさ〇〇。いたずらし〇〇。
- ◆展示室で飲食はできません。
- ◆筆記用具は鉛筆を使います。
- ◆写真撮影の時はフラッシュをオフにします。
撮影禁止の場所があります。表示に注意！

5 福島県の歴史 展示室 見学用シート

(C・Dコース)

◆C (中世) のへや

秘密3 展示室の入口近くには、今から約1000年前に福島県で起こった戦いのようすを表した模型があります。立派な鎧を着た武士(さむらい)は馬に乗っています。自動車のなかったこのころ、馬はものすごいスピードで走る最強の武器でした。模型の中に馬は何匹いますか。よ〜く見て、数えてください。

模型の中にいる馬の数 () 頭

◆D (近世) の部屋

秘密4 【D-5町のにぎわい】コーナーには、当時の会津若松市の町のようすを表した模型があります。町の中を道路が通っていますが、現在の道路と比べると、違うところがいくつもあります。どんな所が違つか書いてください。

現在の道路と違う所 ()

◆E (近現代) の部屋

秘密5 展示室には、ある乗り物が本物と同じ大きさで作られています。この乗り物は今から約70年前に福島県内を走っていたバスです。このバスは何人乗りだったでしょうか。椅子の数をヒントに考えてください。

このバスは () 人乗り

◆F (自然と人間) のへや

秘密6 展示室の入口近くに、浜通り地方の南相馬市小高区にある井田川浦で使われていた大きな乗り物が展示されています。浅い海を行き来するのに便利だったこの乗り物は何でしょうか。

この乗り物の名前 ()

◆◆探険はどうでしたか? おもしろかったですか?◆◆

全部探すことができたあなたは「Fukushima博士」です!

<常設展示室を探検しよう！ 入門編 解答>

秘密 1 見つけた動物の名前（ **クマ、シカ、ウサギ、魚（アユ）** ）

秘密 2 動物の名前（ **鳥（タカ）** ）

秘密 3 模型の中にいる馬の数（ **12** ）頭

秘密 4 現在の道路と違う所

- ・道路の真ん中に水路がある
- ・路面が舗装されていない
- ・交差点に信号機がない
- ・交通標識がない
- ・側溝がない
- ・歩道がない
- ・ガードレールがない
- ・横断歩道がない
- ・昔は交差点の真ん中に建物（火の見櫓・制札場）が立っている

秘密 5 このバスは（ **12** ）人乗り

秘密 6 この乗り物の名前（ **舟（丸木舟）** ）

登場します。餅搗きで使うこの道具も、この時に登場しました。

この道具は、もともと米の殻(もみ殻)を外して白い米にする道具でしたが、餅搗きにも使われるようになりました。この道具は、二つの道具がセットになって初めて役に立ちます。

展示してあるこの道具は何というものでしょうか。

【ヒント】月のウサギも使っています。片方は「猿カニ合戦」にも登場します。

道具の名前 () と ()

◆B (古代) の部屋

秘宝 3 展示室の中央には、埴輪という土でできた人形がたくさん並んでいます。埴輪は、昔の王様の墓に並べられた墓の飾りですが、墓の中に悪い霊が入って王様の死体に悪さをしないようにバリアの役目を果たしています。

いろいろな人の形をした埴輪がありますが、この中に一つだけ人間ではないものが混じっています。ある動物の形をした埴輪ですが、この動物は神様と人間の間を行き来することができる「神様の使い」と考えられていたようです。王様の魂を神様のもとへ運ぶ役目を果たしたのかもしれませんが。

さて、この動物は何でしょうか。

動物の名前 ()

秘宝 4 展示ケースの中にパンチパーマの坐っている人がいます。これは薬師如来という仏様で、今から約1000年前のものです。左手に薬壺という薬の入った器を持っており、人々の病気を治すのが得意な仏様です。

この仏像は、隣りに展示されている僧(お坊さん)が作らせたと伝えられています。この僧は慧日寺や勝常寺などの寺を作り、会津地方の仏教を盛んにした全国的にも有名な人物です。この僧は、何という人物でしょうか。

僧の名前 ()

◆C (中世) のへや

秘宝 5 展示室の最初には、立派な鎧が展示されています。昔の武士（さむらい）が着ていたものですが、このような鎧を全員が着ていたわけではありません。鎧を着た人は、ある乗り物に乗れるぐらい高い地位の人でした。当時のこの乗り物は、現在の高級外車と同じように、すごいスピードで走る高価な乗り物でした。【C-1阿津賀志山の合戦】コーナーにある模型を見て、鎧を着た人が乗っていた乗り物を探してください。

の 乗り物の名前 ()

秘宝 6 展示室の中にお墓のような場所があります。石に何かを刻んだものがいくつも立っていますが、これは「板碑」というものです。亡くなった人の骨を埋めるお墓は別な所に作られていて、板碑が立つ場所は亡くなった人が極楽に行けるようにお祈りをする場所です。ですから、この板碑の下を掘っても骨は出てきません。

このような板碑を盛んに立てていたのは、主にどのような人たちだったと思いますか。下の三つの中から一つ選んでください。

- ①農民（お百姓さん） ②武士（お侍さん） ③墓守り（お墓の世話を
する人）

【ヒント】人を殺したら極楽にいけるかな？

◆D (近世) の部屋

秘宝 7 部屋の入口の所に札が下がった大きな屋根の建物があります。これは「制札場」というもので、江戸時代にいろいろなお知らせを地域の人々に伝えるために作られた場所です。伝えたい内容を書いた札が下げられており、なるべくみんなの目にふれやすい場所に建てられていました。

【D-5町のにぎわい】コーナーには、当時の会津若松市の町のようすを表した模型がありますが、この中にも制札場があります。この制札場は、今では考えられない場所に建っています。どんな所でしょうか。びっくりしますよ。

制札場のある場所 ()

【ヒント】ここなら確かにみんなの目にふれるよね。気づかない人はいないね。

ひほう
秘宝 8

【D-3 庶民の信仰】コーナーには、こわい顔をした怪物のお面のよう
なものが展示されています。これは獅子頭ししがしらといって、神様へ願ねがいを込めた踊おどりをする
時ときに使う道具つかです。獅子ししがしらという中国の想像上そうそうじょうの動物どうぶつをもとに作つくられています。
会津地方あいづちほうでは、この獅子頭ししがしらを使つかって春の彼岸はる ひがんの時ときに、今年ことしの豊作ほうさくや健康けんこう、幸しあわせ
を願ねがって神社じんじやなどで踊おどられます。獅子ししがしらが三匹さんびきで踊おどるので三匹獅子さんびきししがしらと呼ばれてい
ます。

三匹さんびきの獅子ししがしらを見ると、角つのの生はえたオスと角つののないメスめすがいることがわかりま
す。さて三匹さんびきのうちオスは何匹なんびき、メスは何匹なんびきいるでしょうか。展示てんじされている
獅子頭ししがしらをよく見みて調しらべてみましょう。

オス（ ）匹 メス（ ）匹

◆E (近現代) の部屋

ひほう
秘宝 9

展示室てんじしつの入口いりぐちには、両側りょうがわに車くるまのついた煙突えんとつのようなものがあります。これ
はアームストロング砲ほうという今いまから約150年前の大砲たいほうです。このころの日本にほんは
国くにの中なかが二ふたつに分わかれて戦争せんそうを行おこなっていました。(戊辰戦争ぼしんせんそう)

県内けんないの人々ひとびとも福島県ふくしまけんの地域ちいきに攻せめてくる鹿児島県かごしまけんや山口県やまぐちけんなどの人ひとたちと
あちこちで戦たたかいました。その戦争せんそうの時ときに鹿児島かごしまや山口やまぐちの人ひとたちが使つかっていた
大砲たいほうと同じものが展示てんじしてあります。

この大砲たいほうを使つかって博物館はくぶつかんの建たっている若松城わかまつじょうも攻撃こうげきされました。この攻撃こうげき
若松城わかまつじょうはどうなったでしょうか。大砲たいほうの近くちかに、戦争せんそうが終おわった後あとに若松城わかまつじょう
のようすを撮とった写真しゃしんがあります。写真しゃしんを見みて、下したの三つの中なかから一つ選えらんで
○を付くわけてください。

①建物は壊れていない。 ②建物はボロボロになった。

③建物は跡形もなく壊された。

ひほう
秘宝 10

展示室てんじしつの中央北側ちゅうおうきたがわには、ある乗り物のりものが本物ほんものと同じ大きさで作つくられています。
この乗り物のりものは今いまから約70年前ななまへに福島県内ふくしまけんないを走はしっていたものですが、今いまでは考
えられないものを燃料ねんりょうにして走はしっていました。燃料ねんりょうに使つかっていたのは何なんでし
ょうか。

ねんりょう つか
燃料に使っていたもの（ ）

ひほう
秘宝11

【E-8戦後の社会】コーナーには、今から約70年前に福島県内で使われていた教科書やランドセルが展示されています。現在のものと大きさを比べてみましょう。こうなったのには、ちゃんとした理由があります。どうして、「現在よりも〇〇〇」なのか家の人に尋ねてみましょう。

また、教科書には墨が塗られていて読めない所がたくさんあります。これも教科書を持っていた人がいたずらをしたわけではなく、ちゃんとした理由があります。これも家の人に尋ねてみましょう。博物館からの宿題です。

やく ねんまえ きょうかしょ げんざい
約70年前の教科書は、現在のものより（ ）い。

◆F（自然と人間）のへや

ひほう
秘宝12

展示室の入口近くに、浜通り地方の南相馬市小高区にある井田川浦で使われていた大きな舟が展示されています。浜通り地方の北側は海岸線が入り組んでいて、海が陸の内側まで入り込んだ「浦」という地形がいくつもありません。このような浦で活悪したのが、このような底の浅い舟でした。この舟は、どうやって作られたのでしょうか。舟をよく観察して下の三つの中から一つ選んで○をつけてください。

①鉄の骨に木の板を貼り合わせて作っている。

②木の板を何枚も貼り合わせて作っている。

③半分に割った木をくり抜いて作っている。

どうでしたか？

てんぜんぶさが
12点全部探すことができれば

あなたは「Fukusima博士」！

◇◇◇◇◇ はくぶつかん いっく せんりゅう ちょうせん 博物館で一句！～けんぱく川柳に挑戦～ ◇◇◇◇◇

せんりゅう こ しち こ ひょうげん いちばんみじか さくぶん きょう けんがく わ
川柳は五・七・五で表現する一番短い作文です。今日の見学で分かったこと、
かん かんが じぶん きょう おも て せんりゅう あらわ
感じたこと、考えたこと、自分の今日の思い出を川柳で表してみましょう。

(五)

(七)

(五)

◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇ はくぶつかん き い いっぴん 博物館のお気に入りの一品！ ◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇

てんじしつ なか おも ふしぎ おも なん
展示室の中でおもしろいと思ったもの、不思議だなと思ったもの、何でもいいで
す。見学した中で一番印象に残ったもののところもど
す。見学した中で一番印象に残ったものの所に戻ってスケッチしてみましょう。

◆この資料は？

なまえ
(名前)

ころ
(いつ頃のもの)

しちょうそん
(どの市町村のもの)

◆資料のスケッチ ※よく観察して描いてみよう。いろいろなことに気付くよ！

◆資料について気付いたこと

- ・
- ・
- ・

<福島県の12の秘宝を探せ！初級編 解答>

- 秘宝1 お墓に葬られた動物の名前（ 犬 ）
- 秘宝2 道具の名前（ 臼 ）と（ 杵 ）
- 秘宝3 動物の名前（ 鳥（タカ） ）
- 秘宝4 僧の名前（ 徳一（とくいつ） ）
- 秘宝5 乗り物の名前（ 馬 ）
- 秘宝6 ②武士（お侍さん）
- 秘宝7 制札場のある場所（ 道路の交差点 ）
- 秘宝8 オス（ 2 ）^{ひき}匹 メス（ 1 ）^{ひき}匹
- 秘宝9 ②^{たても}建物はボロボロになった。
- 秘宝10 燃料に使っていたもの（ 木炭 ）
- 秘宝11 約70年前の教科書は、現在のものより（ 小 さ ）い。

<宿題の答え>

※戦後の物資が不足していた時代なので、資源の節約のために、多くのものが小さいサイズになっていた。この他では卒業証書も現在よりだいぶ小さく、ノートの半分ぐらいの大きさでした。

※戦後も新しい時代の考え方にあった新しい教科書が出来るまでは、戦前の教科書が使われていました。しかし、戦前のふさわしくない教育内容が書かれているため、ふさわしくない部分を墨を塗って読めないようにしました。

- 秘宝12 ③^{はんぶん}半分^わに割^きった木^ぬをくり抜^{つく}いて作^{つく}っている。

られた部分の2カ所以上ある。

ひほう 秘宝2 てんじしつ ちゅうおう やよいしだい いねか ようす ぶくげん もけい いね
展示室の中央には、弥生時代の稲刈りの様子を復元した模型もあります。稲
刈りをしている女性の手許を見ると、この時代特有の石器を持っています。県内
で発見されるこの石器は、ある地域で比較的簡単に手に入る石を使って作られ
ていたと考えられています。その地域では、実際にこの石器を専門に作ったと
考えられる遺跡も発見されています。この石器の名前は何か。また、材料
の石がとれる地域は、現在のどの市町村にあたりますか。

①石器の名前（ ）

②石が主にとれる地域の市町村名（ ）

◆B (古代) の部屋

ひほう 秘宝3 てんじしつ なか とうほく こ しゅつど こふんしだい きちよう
展示室のケースの中には東北で1個しか出土していない古墳時代の貴重なも
のが展示されています。会津若松市にある会津大塚山古墳から出土しているこ
の貴重なものは何でしょうか。また、誰からもらったものでしょうか。

①展示品の名前（ ）

②誰からもらったものか（ ）

ひほう 秘宝4 とうだいじ だいぶつ つく ならしだい でんせんびょう りゅうこう さいがい ほんらん
東大寺に大仏が作られた奈良時代は、伝染病が流行したり、災害や反乱が
次々と起こったりして、社会全体に不安が広がっていました。聖武天皇は仏教
の力で社会の不安を鎮めて国を治めようと、ある命令を出しました。玉川村
江平遺跡から出土した木簡から、その命令が福島県でもきちんと行われていた
ことが証明されました。この木簡からわかる聖武天皇の命令は次のうちどれ
でしょうか。

①全国でお経を読ませる。

②東大寺の半分の大きさの大仏を国分寺でも作らせる。

③地域ごとに代表者の中から3名を僧にする。

◆C (中世) のへや

秘宝 5

源頼朝が征夷大將軍に任じられ名実ともに鎌倉幕府を開く3年前（文治5年：1189年）、源頼朝は全国の武士の頭になる総仕上げとして約28万の軍勢を率いて東北地方を治めていた奥州藤原氏を討つために大遠征をしました。この時、東北地方の福島市と国見町付近が最大の激戦地となりました。特に国見町周辺には、頼朝軍を防ぐための奥州藤原氏の最終兵器が作られました。頼朝軍の進軍を抑えるために奥州藤原氏が作ったものは、次のどれでしょうか。

- ①石を高く積み重ねて土手状にした石塁
- ②堀と土手（土塁）を2重に組み合わせた二重堀
- ③周囲に石垣と堀を4重の巡らせた館

【豆知識】福島市周辺を治めていた佐藤氏の子どもたちが源義経のボディガードを務めるぐらい奥州藤原氏から信頼された地域でした。

秘宝 6

右の絵は室町時代の京都のようすを描いた「洛中洛外図屏風」の中に描かれた將軍の屋敷です。この絵と展示室【C-6戦国の群雄】コーナーにある梁川城復元模型を比べて似ている点を三つ見つけましょう。



- ①大きな_____がいくつも建てられている。
- ②池を中心とした_____がある。
- ③一番立派な建物から_____がよく見える。

【豆知識】梁川城は陸奥国守護だった伊達植宗の本拠地のお城だよ。

◆D (近世) の部屋

秘宝 7

安土桃山時代に福島県の約2/3の地域を治めていた蒲生氏郷という武將は、天下統一に大きな役割を果たした有名な武將から派遣された人物です。福島県に来たこともあるこの有名な武將は、次のうち誰でしょうか。

おだのぶなが
①織田信長

とよとみひでよし
②豊臣秀吉

とくがわいえやす
③徳川家康

【豆知識】この武将は、白河市しらかわしをとおって会津若松市あいづわかまつしまで来たことがあります。

ひほう
秘宝 8

【D-5 町のにぎわい】コーナーには、江戸時代えどじだいに使われた看板かんばんが展示てんじされています。展示されている右の写真みぎの看板しゃしんは、福島市ふくしましで当時とうじ、ある商売しょうばいをしていた家いえに伝わつたっていたものです。この看板かんばんと関係かんけいのある言葉ことばは下の3つのうち、どれでしょうか。



しのうこうしょう
①土農工商

さこく
②鎖国

さんきんこうたい
③参勤交代

【ヒント】看板かんばんの最初さいしょに書いてある文字かは地名もじ？ 最後さいごは「休みやす」「宿やど」

◆E (近現代) の部屋

ひほう
秘宝 9

【E-4安積開拓事業】コーナーには、日本遺産にほんいさんに登録とうろくされた安積疏水あさかそすいのようすをわかりやすく説明せつめいした模型もけいがあります。郡山地域こおりやまちいきの農業のうぎょうを発展はってんさせるために行われた大規模な農業用水路のうぎょうようすいろを作る事業つくにより、江戸時代えどじだいと比べて農地のうちが大きく広ひろがりました。この模型もけいからの問題もんだいです。安積疏水あさかそすいは現在げんざいでも使つかわれていますが、水みずはどこから引ひかれているのでしょうか。また、どうしてその場所ばしょから水みずを引ひかなければならなかったのでしょうか。

①安積疏水あさかそすいの水みずを取り入いれている水源すいげんの名前なまえ _____

②近くながを流ながれているもう一つひとの水源すいげんの名前なまえ _____

③この水源すいげんから水みずを引ひかなければならなかった理由りゆう

【ヒント】模型もけいをよく見みてね。土地とちの高たかさに注ちゅう目もく！

ひほう
秘宝 10

【E-6日本の花形産業】コーナーには右の写真みぎの



資料が展示されています。これは明治時代に福島県で盛んに生産された「ある商品」に付けられたラベルです。この商品は何でしょうか。また、商品のラベルの文字は何語で書かれていますか。どうしてそのような言語を使ったラベルを商品に付けたのでしょうか。展示コーナーのものをよく観察して答えを考えてください。

①このラベルを付けた商品は何？ _____

②ラベルに使われている言語名（何語） _____

③ラベルにその言語を使った理由 _____

ひほう
秘宝11

展示室の中央北側には、ある乗り物の実物大復元模型が展示してあります。この乗り物は、今では考えられないものを燃料にして走っていました。燃料に使っていたのは何でしょうか。また、この乗り物が走っていたのは、いつ頃のことでしょうか。そして、その当時、ガソリンを使わずに別な燃料で走っていたのは、どうしてでしょうか。

①燃料に使っていたもの _____

②この乗り物が走っていた時期 _____

③ガソリンではなく、この燃料を使っていた理由 _____

◆F（自然と人間）のへや

ひほう
秘宝12

戦後の日本は物資が非常に不足しており、日々の暮らしに必要なものにも不自由な生活でした。国内で採掘できる石炭は燃料・エネルギーの中心として日本の復興を支える重要な役割を果たしました。いわき市の常盤炭鉱も関東地方に石炭を大量に送り出し、日本の復興を支えました。【F-2 福島県の常磐炭鉱】コーナーには常磐炭鉱で使われた道具が展示されています。炭鉱で使われた道具の中で興味のある道具を一つ選んで、名前と何に使うものか（用途）を書きましょう。

（道具の名前）

（用途）

12点全部探そうことができたら あなたは「Fukushima 博士」!

◇◇◇◇◇◇ はくぶつかん いっく せんりゅう ちょうせん 博物館で一句！～けんぱく川柳に挑戦～ ◇◇◇◇◇◇

せんりゅう こ しち こ ひょうげん いちばんみじか さくぶん きょう けんがく わ
川柳は五・七・五で表現する一番短い作文です。今日の見学で分かったこと、
かん かんが じぶん きょう おも て せんりゅう あらわ
感じたこと、考えたこと、自分の今日の思い出を川柳で表してみよう。

(五)

(七)

(五)

◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇ はくぶつかん き い いっぴん 博物館のお気に入りの一品！ ◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇

てんじしつ なか おも ふ し ぎ おも なん
展示室の中でおもしろいと思ったもの、不思議だと思ったもの、何でもいいで
す。見学した中で一番印象に残ったものの所に戻ってスケッチしてみよう。

◆この資料は？

なまえ
(名前)

ころ
(いつ頃のもの)

しちょうそん
(どの市町村のもの)

◆資料のスケッチ ※よく観察して描いてみよう。いろいろなことに気付くよ！

◆資料について気付いたこと

- ・
- ・
- ・

<福島県の12の秘宝を探せ！上級編 解答>

- 秘宝1** ①家の中央寄りに 土器 が埋められている。
②平らな 石 や丸い 石 を組み合わせて作られている。
③ 火 を焚く場所が 土器 で作られた部分と 石 で作られた部分の2カ所以上ある。
- 秘宝2** ①石器の名前：石庖丁（いしぼうちょう）
②石が主にとれる地域の市町村名（ **南相馬市** ）
- 秘宝3** ①展示品の名前（ **三角縁神獸鏡** ）
②誰からもらったものか（ **ヤマト政権（大和朝廷）** ）
- 秘宝4** ①全国でお経を読ませる。
- 秘宝5** ②堀と土手（土塁）を2重に組み合わせた二重堀
- 秘宝6** ①大きな 建物 がいくつも建てられている。
②池を中心とした 庭（庭園） がある。
③一番立派な建物から 池 がよく見える。
- 秘宝7** ②**豊臣秀吉**
- 秘宝8** ③**参勤交代**
- 秘宝9** ①安積疏水の水を取り入れている水源の名前 **猪苗代湖**
②近くを流れているもう一つの水源の名前 **阿武隈川**
③この水源から水を引かなければならなかった理由
阿武隈川は郡山の平地よりも低い所を流れているので、水を引く事ができない。猪苗代湖は郡山より高い所にあるので、水を流しやすい。

- 秘宝 10** ①このラベルを付けた商品は何？ 生糸
②ラベルに使われている言語名（何語） 英語
③ラベルにその言語を使った理由
アメリカなどの外国に生糸を輸出していたので、英語のラベルを付けた

- 秘宝 11** ①燃料に使っていたもの 木炭
②この乗り物が走っていた時期 日本が戦争をしていた頃
③ガソリンではなく、この燃料を使っていた理由
戦争を続けていくためには戦車や飛行機用のガソリンが必要で、戦争に関係ない所ではなるべくガソリンを使わないようにするため

- 秘宝 12** （道具の名前） コールピック など （用途） 石炭を砕く など

6 館内探検 学習プログラム 一覧

【館内オリエンテーリング】

(Eコース)

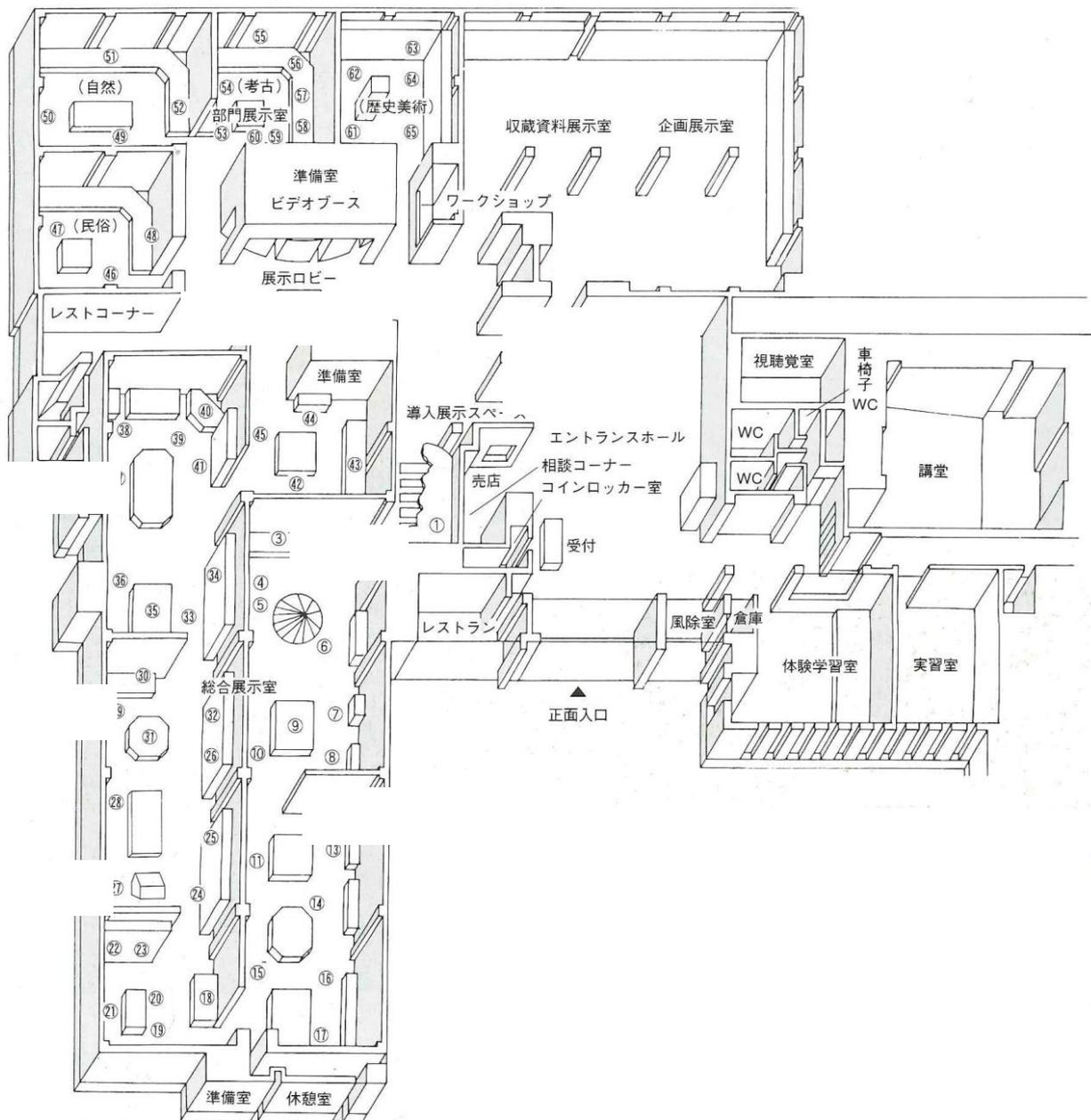
館内オリエンテーリング探検コース図

探検コースは常設展総合展示室の6部屋を使って行われます。

スタート地点はエントランスホールですが、第1チェックポイントは各チームばらばらです。

ミッションカードの左上に各部屋のコーナ名が書かれていますので、まずはそれを頼りにチェックポイントの場所まで行きましょう。

それでは、みなさんの健闘を祈ります。



※途中に職員が配置されています。何か困りごとがありましたら、声をかけてください。

館内オリエンテーリング

探検記録記入シート

◆ A : 原始

◆ B : 古代

◆ C : 中世

◆ D : 近世

◆ E : 近・現代

◆ F : 自然と人間

班別活動用ミッション（見学指示）カード

けんぱく暗闇探検隊
探検コースガイド
い 一 番 組



A（原始）－ 4 環境の変化と生業 c

じょうもんじん せきそく や さき つ つか
縄文人は石鏃（矢の先に付けて使
う石器）の付いた矢でどんな動物を
と
獲っていましたか？
みつ か
三つ書いてください。

A（原始）－ 8 稲作の開始 a

やよいしだい いねか あらわ
弥生時代の稲刈りのようすを表
し
た模型を見ると、弥生人の女性
が右手にある道具を持っています。
この道具は何でしょうか？

B（古代）－ 2 原山1号墳の主 b

はらやま ごうふん いずみざきむら はっけん
原山1号墳（泉崎村）から発見さ
れた埴輪の中には、ある楽器を弾
いている人物を表しているものが
あります。
その楽器は何でしょうか？

B（古代）－ 5 陸奥国の成立 c

あすか へいあんじだい ぐんやくしょ いせき
飛鳥～平安時代の郡役所の遺跡
を発掘すると必ず倉庫の跡が発見
されます。郡役所の倉庫（正倉）
の中には何が入っていたでしょう
か？

B（古代）－ 7 在地の仏教 a

けんない ゆいいつこくほう してい
県内で唯一国宝に指定されてい
る仏像である湯川村勝常寺の
薬師如来坐像は、どんな材料で
できていますか？

C (中世) - 1 阿津賀志山の合戦 b

鎌倉時代の幕開けに大きく関係していた阿津賀志山の合戦の模型の中で馬に乗っている武将は頼朝軍、それとも奥州藤原氏軍、どちらでしょうか？

C (中世) - 6 戦国の群雄 a

ケース内には三日月形の飾りの付いたよろいを着て馬に乗った武将の絵が展示されています。非常に有名なこの武者は誰でしょうか？

D (近世) - 2 学問と文化 a

江戸幕府の筆頭老中として寛政の改革を推し進めた白河藩の藩主は誰でしょうか？

教科書に必ず登場する有名な人物ですよ！

D (近世) - 1 奥羽仕置と諸藩の成立 a

江戸時代の南会津地方は、どの領地だったのでしょうか？

会津地方だから、あの有名な藩の領地だったとは限らないよ！

E (近・現代) - 1 戊辰戦争 b

戊辰戦争当時の会津藩の藩主で、京都守護職も務めていた人物は誰でしょうか？

当時の孝明天皇からも信頼された人物ですよ！

E (近・現代) - 3 福島県の成立 a

現在の福島県は、いくつかの県が合併したり、地域が分離されたりして現在の範囲になりました。

福島県が現在の範囲になったのはいつでしょうか？

7 教科書深化・補充用 学習プログラム 一覧

(Fコース)

福島県立博物館 学校団体学習プログラム一覧

【社会科】

授業No.1 【教科の大導入】

1 単元名 「一番進化しているやきものは、どれ？」

2 ねらい

◆縄文土器から江戸時代の磁器までの器を古い順にならべ、時代の変化とともに器の形や特徴、焼き方などが変化してきていることに気付く。

◆時代の変化とともに、人々がさまざまな工夫を重ねて、便利な生活を送れるようになってきていることがわかる。

3 使用する資料

縄文土器（深鉢）、弥生土器（壺）、土師器（杯）、須恵器（杯）、中世陶器（椀）、磁器（椀） ※
古い順

4 展開例

(1)グループごとに6種類のやきものを実際にさわって、手触り、厚み、表面の特徴などから進化の順番を予想する。

(2)グループの予想を発表し、順番を付けた根拠について説明する。

(3)正しい順番を教科書の既習事項をもとに考えていく。

・日本で一番古いやきものは縄文土器→縄文の付いている土器が縄文土器

・弥生時代になると米作りが始まる→種籾の貯蔵用に壺が登場する

・教科書に出てくる古墳時代の土器は、→土師器の杯

・古墳時代に登場する登り窯を使ったやきもの→須恵器の杯

※同じ杯でも焼き方が違うので、質感や堅さがまったく違う。

・釉薬がかかって表面がつるつるのお茶茶碗→室町時代の茶の湯→中世陶器

・釉薬がかかっているが、とても薄い軽いお茶碗→磁器（椀）

(4)まとめ

・表面がツルツルして、薄くて、軽い磁器が一番進化したやきものである。

・時代とともにやきもの作りは進化しており、その時代の生活に合わせて工夫してやきものが作られている。

授業No.2 【縄文時代】

1 単元名 「縄文土器のひみつを探る～縄文はなぜ付いているのか？」

2 ねらい

◆縄文土器に直接触れることを通して、縄文土器の特徴を知る。

◆縄文土器の製作工程を模擬的に体験し、縄文土器作りの概要を知る。

3 使用する資料

縄文土器（本物：観察用）、縄文土器模型内型（発砲スチロール）、油粘土、麻紐

4 展開例

(1)縄文土器に縄文が付いている理由について、本物を観察しながら考える。

- ・土器の部位によって縄文の傾きが変わることに気付かせる。

(2)グループの予想を発表する。

- ・自分たちの考えた根拠について実物を使って説明する。

(3)模型土器を作って縄文を付けてみよう。

①模型土器をつくる。

- ・油粘土で粘土紐をつくる
- ・発砲スチロール縄文土器内型に油粘土の紐を重ねて、土器をつくる。
- ・土器の表面をヘラでなでて、表面を滑らかにする

②縄文原体をつくる。

- ・「縄目模様はどうやって付けるの？」について考える
- ・麻紐を撚って縄文原体をつくる

③油粘土の模型土器の表面に縄文を付ける

(4)体験を通して縄文を付ける意味を考え、発表する。

- ・粘土の表面を締める
- ・滑り止め

(5)縄文時代の縄について知る

- ・縄文人にとって縄は身近なもの
- ・さまざまな太さの縄が遺跡から出土している→ロープから糸まで

授業No.3 【弥生時代1】

1 単元名 「弥生土器を見つけよう」

2 ねらい

- ◆弥生土器に直接触れることを通して、弥生土器の特徴を知る。
- ◆米作りの始まりとともに、種籾貯蔵用の壺が登場するなど、生活に大きな変化が生じたことを知る。

3 使用する資料

縄文土器（深鉢）、弥生土器（壺）、土師器（甕）、須恵器（杯）

4 展開例

(1)4つの土器の中から弥生土器を予想する。

【発問】この4つの土器は、縄文土器、弥生土器、古墳時代の土師器、古墳時代の須恵器です。さて、弥生土器はどれでしょうか？」

(2)グループの予想を発表する。

- ・自分たちの考えた根拠について実物を使って説明する。

(3)弥生土器と判断する根拠を考える。

- ・弥生時代の特徴が土器を探すヒントになっていることを伝え、

①弥生時代の特徴をふりかえる。

- ・稲作が始まった時代→米作りの方法を振り返る
 - ・稲作には種籾が必要→種籾を貯蔵しておく容器が必要
- ②種籾を貯蔵するのに適した器を考える。
- ・貯蔵用に適した器→胴が大きい、こぼれにくいように首が窄まっている
- (4)壺のもうひとつの役目を考える。
- ・弥生土器の壺＝全体が赤く塗られている→「復元写真」を提示
 - ・赤色→血→生命力→赤い器に入れた種籾＝パワーアップされた種籾
- (5)まとめ
- 米作りが始まると、それにあった形の土器があらわれるなど、生活のいろいろな面で変化が起こった。

授業No.4 【弥生時代2】

- 1 単元名 「弥生時代の稲刈りのようすを調べよう」
- 2 ねらい
 - ◆弥生時代と現代の稲刈りのようすを比べ、日本で米作りが始まったころの稲作のようすについて知る。
 - ◆復元農具や資料をもとに弥生時代の稲作のようすについて予想をもとに調べる。
- 3 使用する資料

石庖丁（実物）、木製鋏、掘り棒、田下駄、石斧 ※石庖丁以外は復元品
- 4 展開例
 - (1)弥生時代の稲作の工程（作業）を予想する。
 - ①現代の稲作の工程を振り返る
 - ・田起し→代かき→苗代育苗→田植え→雑草とり・施肥→水上げ→稲刈り
 - ・上記の各工程のカードをシャッフルして提示し、工程順に並び替える。
 - ②弥生時代の工程を予想
 - ・先のカードのほかに白紙カードを与え、現代の作業から取捨選択するとともに、追加する作業をカードに書かせ、並べさせる。それぞれの考えを発表させる。
 - (2)稲作の工程を写真・資料から確かめる。
 - ①田植えは行っていたか？
 - ・弥生時代の水田の写真・図面（岡山県百間川遺跡）→田植えはしていない
 - ※一定幅の単位で並んでいるが、筋状に揃っていない→種籾を直播
 - ②品種はどうだったか？
 - ・発掘で出土した稲の DNA 分析結果の図
 - 温帯ジャポニカと熱帯ジャポニカの両方がある＝水稲と陸稲が混在
 - いろいろな品種が混じった状態で稲作を行っていた
 - ③どの部分から刈り取っているか？
 - ・展示室の稲刈り風景模型→穂先だけを刈り取る（穂摘み）
 - 品種がばらばらで直播＝一枚の田の中で均一な生育にならない

→同じ田の中で実る所と実らない所→田の中を同時に稲刈りできない

(3)復元道具を使う工程を考える

石庖丁（稲刈り）、木製鍬（開墾・田起し）、掘り棒（籾蒔き）、田下駄（代かき）、石斧（畦作り・矢板作り）

(4) まとめ

弥生時代の米作りの作業工程をたしかめる。

・開墾→田起し→畦作り→代かき→籾蒔き→雑草とり（施肥）→稲刈り

授業No.5 【古墳時代1】

1 単元名 「勾玉は、みんなのアクセサリー？」

2 ねらい

◆古墳時代の勾玉作りの体験を通して勾玉作りの工程を知るとともに、勾玉が貴重なものであることを知る。

◆体験や埴輪写真などから、勾玉は豪族などの特別な人物のアクセサリーであることを知る。

3 使用する資料

勾玉（出土品実物）、勾玉製作体験キット、埴輪写真（男王、巫女妃、農夫、乳母）

4 展開例

(1)古墳時代には豪族（王様）以外にも勾玉を身に付けていた人がいたのかを予想する。

・考えた根拠を示しながら予想を発表をする。

(2)勾玉製作体験をもとに考えて行く。

①勾玉をつくる

- ・本物の勾玉を手にとって特徴をよく観察する。
- ・本物はヒスイなどの宝石でできている。
- ・本物の石は体験キットの石（滑石）の60倍の硬さ
- ・当館での製作時間は約1時間

②本物の勾玉を作るのに、どれぐらいかかるかを自分の体験から推理する。

- ・時間＝1時間×60倍＝60時間＝子どもたちの学校活動で約2週間分
- ・価格＝ヒスイの現在の流通価格と最低賃金で推定→1個30万円

※勾玉3個で軽自動車1台分

③勾玉はだれでも手に入るものか？

- ・ヒスイ＝新潟県南部（糸魚川周辺）でしか採れない宝石
- ・ヒスイやメノウの勾玉を加工した工房の跡→県内では見つからない
- ・福島県を越えて全国に影響を及ぼす存在から貰うしかない貴重品
→大和朝廷から支給されたもの＝超高級品
- ・大和朝廷と関係を持った豪族などの特別な人しか持っていない特別品

(3)県内外で出土している埴輪に表現されている衣装や身づくろいの様子から勾玉が身に付けている人物を考える。

・男王、妃、巫女などの埴輪は勾玉の表現がある。農夫・乳母には勾玉の表現がない。勾玉を

身に付けているのは男女差ではなく、階級差である。

(4) まとめ

- ・勾玉は豪族などの特別な人物しか身に付けることができなかつたアクセサリーである。

授業No.6 【古墳時代2】

1 単元名 「いろいろな形の古墳があつたのは、なぜ？」

2 ねらい

- ◆古墳の形と大きさには相関があり、大型古墳は前方後円墳が多いことが知る。
- ◆前方後円墳に葬られたのは、その地域を支配する有力な豪族であつたことを知る。

3 使用する資料

県内の主な古墳の写真・図（前方後円墳、前方後方墳、方墳、円墳）、【古墳カード】表（古墳名・墳形・大きさ）、裏（所在市町村・時期）、県内古墳ランキング表、古墳時代の豪族ランクと墳形相関図

4 展開例

(1)どんな形の古墳があつたかをふりかえる。

- ・県内の主な古墳の写真や図を見ながら、4種類の墳形を確認する。

(2)墳形の違いが何を表しているのかを予想して発表する。

- ・考えた根拠を示しながら発表する。

(3)古墳カードを使って、古墳の大きさランキングをする。

- ・古墳の違いは墳形以外に何がある→大きさ
- ・古墳カードを使って大きい順番に古墳を並べてみる。

前方後円墳→前方後方墳→方墳→円墳

- ・前方後円墳は大型の古墳に多い、円墳は小さい
- ・古墳の形は豪族のランクを表していると考えられる
- ・同じ前方後円墳でも大きさはバラバラ
→豪族のランクは墳形と大きさが関係していそう

(4) まとめ

古墳の形や大きさは、葬られている豪族の力の大きさを表していると考えることができる。

授業No.7 【古墳時代3】

1 単元名 「古墳時代のハイテク商品を探せ」

2 ねらい

- ◆古墳時代に大陸から伝えられた新しい文化のひとつである須恵器を他の土器と比べながら、古墳時代に新しい進んだ文化が入ってきたことを実感する。
- ◆須恵器をそれ以前の土器を比べながら、実際にさわって質感などを感じながら、進んだやきものであることを実感する。

3 使用する資料

4種類の土器：縄文土器（深鉢）、弥生土器（壺）、古墳時代の土師器（甕）、須恵器（杯）

※【弥生1】で使用する土器セットと同じものを使う

集落の中での須恵器出土状況比較表（1棟の竪穴住居から出土する土師器と須恵器の出土点数の比較、豪族の館と一般の村での須恵器の出土点数の比較）

4 展開例

(1)古墳時代に大陸から伝えられた新しい文化をふりかえる。

「新しいやきもの（須恵器）」、「漢字」、「仏教」 ※「馬」「カマド」「茶碗で食べる」

(2)4種類の土器の中から「新しいやきもの（須恵器）」を予想する。

・予想した根拠を示しながら予想を発表する。

(3)教科書に出てくる「新しいやきもの（須恵器）」の特徴をふりかえり、須恵器の考えられる土器を決める。

- ・登り窯による新しい製法で作られた、これまでよりも「うすくて」「じょうぶな」土器
- ・須恵器ではないものについても、違う理由を考える。

(4)須恵器はみんなが使っていた器なのか比較表をもとに考える。

- ・須恵器は特別なやきものなので、一般の人々はあまり持っていない。
- ・豪族の館などで比較的多く使われている。

(4) まとめ

渡来人が大陸から伝えた新しいやきもの（須恵器）は、大和朝廷と深いつながりのあった豪族たちに配られ、一般の人々は手に入れることが難しいやきものでした。

授業No.8 【飛鳥時代】

1 単元名 「飛鳥時代に福島県にお寺はあったの？」

2 ねらい

- ◆藤原京が造られた飛鳥時代後半には福島県内にも寺院が建立されていたことを知る。
- ◆県内各地に建てられた寺院には、それぞれ特徴のある文様の瓦が葺かれていたことを知る。

3 使用する資料

近畿地方の瓦カード（飛鳥寺、川原寺、法隆寺、山田寺、東大寺、平城宮、東大寺）

※表：瓦写真と寺院名、裏：時代と所在地と寺院の概要

県内の瓦カード（黒木田遺跡、借宿廃寺、夏井廃寺、腰浜廃寺、泉廃寺）

4 展開例

(1)聖徳太子とその事績をふりかえる。

- ・飛鳥時代を代表する人物は？→聖徳太子
- ・聖徳太子の行ったことは？→冠位十二階、十七条の憲法、法隆寺建立
仏教をあつく信仰

・日本で最初のお寺は？→蘇我氏が建てた飛鳥寺

(2)諸国に国分寺が建てられた奈良時代以前に福島県にお寺があったか予想する。

・予想した根拠を示しながら予想を発表する。

(3)飛鳥時代のお寺を探す方法を知る。

・瓦は飛鳥時代にお寺の屋根を飾るものとして大陸から伝わる

→飛鳥時代の瓦がある遺跡はお寺の可能性大

- ・瓦の模様には流行があつて、時代とともに模様が変化してくる

→飛鳥時代に流行した模様の瓦がある遺跡は飛鳥時代のお寺の可能性大

(4)近畿地方と県内の瓦カードを比べ、似ているペアをつくる。

- ・山田寺—黒木田遺跡、川原寺—借宿廃寺・夏井廃寺、寺町廃寺（『日本霊異記』三谷寺）—腰浜廃寺

※県内の瓦と似ている瓦は、いずれも飛鳥時代の寺院

(5)お寺の造りを比べて、確かめる

借宿廃寺—法隆寺、夏井廃寺—川原寺

- ・お寺の建物配置が分かるものは二つとも飛鳥時代のお寺と同じ

(4) まとめ

福島県内にも飛鳥時代にお寺が建てられていた。

授業No.9 【奈良時代1】

1 単元名 「奈良時代の役所をさぐる」

2 ねらい

◆奈良時代の役所には税を納める倉庫があり、米などが入っていたことを知る。

◆役所の跡からは書類や手紙を書くための文房具（硯）や役人の制服の飾り（ベルト飾り）などが発見されていることを知る。

3 使用する資料

発掘調査で発見された倉庫の礎石だけの写真・図、正倉模型（展示室）、硯（展示室）、ベルト飾り金具（展示室）

4 展開例

(1)発掘で見つかった役所の建物の姿を想像して簡単に絵に描く。

礎石がマス目状に並ぶ建物→柱がすべて上まで突き抜けて行くのか？

(2)描いた絵をいくつか発表し、どんな建物か予想を説明する。

- ・予想した根拠を示しながら予想を発表する。

(3)展示室の正倉模型を見て、建物の特徴をメモする。

- ・屋根には瓦が葺かれている
- ・柱が屋根まで全部突き抜けていない
- ・床が地面より高いところにある
- ・木を組み合わせて壁にしている

(4)この建物の役割を特徴から考える

- ・太い柱が何本も床を支えている→重い物を支えている→重い物が入っている
- ・役所に運ばれてくる重い物は何？→租庸調の税から考える
これらの建物は税を保管しておく倉庫→税は「米」「布」「特産物」
高床倉庫は備蓄するための建物＝米蔵
シャーレの中に入っている焼米から倉庫の中身を考える→米蔵
- ・瓦が葺かれていて立派→役所が力を持っていることを示す

(4)奈良時代の役所の跡から発見されるものから考える。

役所の跡から木簡が発見される→書類を作成→文字を書く→硯
ベルトの飾り金具＝役人の制服の存在→一目見て役人とすぐわかる

(4) まとめ

奈良時代の役所には制服を着た役人が務めていた。役人は文字が書ける人の中から選ばれて、人々に対して命令の文書などを書いていた。役所には税の米や布を保管しておく倉庫が並んで建っていた。

授業No.10 【奈良時代2】

1 単元名 「江平木簡から聖武天皇がみえる」

2 ねらい

- ◆聖武天皇から出された経典を読む命令が実際に行われたことが記された木簡が玉川村から発見されていることを知る。
- ◆都で出された天皇の命令が東北地方でもきちんと行われていたことから、当時の政府が日本全国をきちんと治めていたことがわかる。

3 使用する資料

江平木簡の写真、江平木簡の現代語訳資料、聖武天皇関係年表、日本地図

4 展開例

(1)聖武天皇の事績をふりかえる。

- ・政治を安定させるために都を移した
- ・仏教の力で社会の不安を鎮め、国を治める
- ・国ごとに国分寺を建てる
- ・全国の国分寺の中心の東大寺に大仏をつくる

(2)江平木簡の中身を読み取る。

- ・木簡の現代語訳から内容を読み取る
奈良時代の天平 15 年 3 月に書かれた木簡
皆万呂がお経（金光明最勝王経と大般若経）を 1,100 巻読んだ

(3)聖武天皇関係年表からこの木簡に関係する記事を探す。

天平 15 年正月 14 日から 77 日間に渡って東大寺で法会を行う命令を出す

(4)都（平城京）と江平遺跡の位置関係を調べる

- ・平城京（奈良市）—江平遺跡（玉川村） 約 700km
- ・奈良時代は東山道という道路がつないでいた
- ・玉川村のある石川郡は、奈良時代は白河郡の一部であった

(4) まとめ

都から 700 km も離れていた県南地方でも天皇の命令がきちんと伝えられ、命令通りに人々が行うように地方の隅々まで政府がきちんと治めていたことがわかる。奈良時代の福島県内にも、きちんとお経を読むことができる人がいた。

授業No.11 【平安時代1】

1 単元名 「白水阿弥陀堂の秘密をさぐる」

2 ねらい

◆平安時代後期に当時の都で流行した浄土信仰は東北地方にも伝えられ、いわき市にも白水阿弥陀堂が建てられたことがわかる。

◆極楽浄土を地上に表現するために池を巡らした庭園の中心に阿弥陀堂が建てられた。

3 使用する資料

白水阿弥陀堂写真、白水阿弥陀堂園地全体航空写真、平等院鳳凰堂園地全体航空写真、白水阿弥陀堂模型（展示室）、白水阿弥陀堂内陣写真（展示室）

4 展開例

(1)平安時代に関係した言葉をふりかえる。

「寝殿造り」、「和歌」、「蹴鞠」、「貴族」、「十二単」、「大和絵」、「束帯」、「琴」、「琵琶」、「笛」、「囲碁」、「双六」、「かな文字」、「清少納言」、「紫式部」、「藤原道長」、「小倉百人一首」、「源氏物語」、「枕草子」、「国風文化」、「極楽浄土」、「末法」、「阿弥陀堂」、「平等院鳳凰堂」、「阿弥陀仏」、「念仏」、「熊野古道」、「白水阿弥陀堂」、「年中行事」

(2)「白水阿弥陀堂」の周辺までを含めた上空から見た姿を予想する。

・予想した根拠を示しながら予想を発表する。

(3)白水阿弥陀堂境域全体の航空写真を見て、気づくことを発表する。

・池の中島に阿弥陀堂が建っている。

・阿弥陀堂は中間の中島を両側から結ぶ橋によって入口とつながっている。

(4)阿弥陀堂の中の様子を写真や模型で調べる。

・堂の中には仏像（阿弥陀如来）が飾られている。

・堂の中にも極彩色の絵が描かれている。→仏の住む空間→極楽浄土

(4) まとめ

平安時代の終わりには福島県内でも浄土信仰が広がり、阿弥陀堂が建てられていた。阿弥陀堂の内部は阿弥陀如来の空間で、地上に極楽浄土を表現するために作られている。

さらに、極楽浄土に関連するものとして、藤原道長が始めたと伝えられているお経を埋める経塚も盛んに作られており、仏教に関連する行事等が盛んに行われていた。

授業No.12 【平安時代2】

1 単元名 「なぜ、お経を埋めるの？」

2 ねらい

◆平安時代に貴族の間で流行した浄土信仰、末法思想に関連して都では経塚を造ることが流行したが、福島県内でも各地で造られていたことを知る。

◆お経を埋めることによって実現することを望んだ人々の願いについて調べる。

3 使用する資料

承安の3経筒外容器銘文（現代語訳）、上ノ原経塚構造写真、上ノ原経塚出土経典写真、末法思想解説資料

4 展開例

(1)平安時代に貴族の間で信じられていたことをふりかえる。

- ・「極楽浄土」、「末法」、「仏教」
- ・極楽浄土に行くために念仏を唱えたり、阿弥陀堂を造ったりした。

(2)上ノ原経塚の写真を見て、筒の中に入っているものを予想する。

【発問】

この筒の中には、あるものが入っていました。当時の貴族たちの間で極楽浄土に行くために、あるものを筒の中に入れて地面の中に埋めることが流行しました。筒の中には何が入っているのでしょうか？

- ・予想した根拠を示しながら予想を発表する。

「お経」「宝物」「骨」

(3)お経が筒の中に入っている理由を考えてみよう。

- ・上ノ原経塚から出土している経典の写真を見て、お経が入っていたことを確認する。
- ・お経を入れる理由を考える。

①念仏を唱えるのに必要 ②仏教で一番大切なもの ③後から使うために隠す

(4)末法思想について知る。

- ・解説シートから当時の人々の「世界の変わり方」について読み取る。
- ・将来、仏さまが人々を救う時に使えるように埋めておくのが経塚

(4) まとめ

平安時代の人々は、貴族を中心に、死後に極楽浄土に行けることを願って、お経を埋めることを行った。

授業No.13 【鎌倉時代】

1 単元名 「鎌倉幕府をつくるための最後の戦いは？」

2 ねらい

◆壇ノ浦の合戦の後、源頼朝が鎌倉幕府の地位を確立するために行った奥州藤原氏との戦い（奥州合戦）の主戦場が福島県であったこと（阿津賀志山合戦）を知る。

◆合戦のようすを調べるとともに、現在も当時の堀などが現地に残って史跡となっていることを知る。

3 使用する資料

阿津賀志山合戦模型（展示室）、吾妻鏡（現代語訳）、東日本地図（源頼朝軍の進軍ルート図）、阿津賀志山合戦に関する解説シート

4 展開例

(1)教科書（p51）「源氏の軍の進路」の中から平泉に延びる進軍ルートに注目し、このルートの意味について予想する。

- ・平泉の藤原氏を攻撃するルート→平泉を攻撃した理由を考える

(2)吾妻鏡（現代語訳）を使って、奥州藤原氏を攻撃した理由や進軍ルートを調べる。

- ・義経を匿って、頼朝の命に従わない奥州藤原氏を討つ

- ・鎌倉を出発し、平泉を目指して3軍（太平洋沿い・内陸阿武隈川沿い・北陸方面）に分かれて進軍し、福島県国見町の阿津賀志山周辺が大激戦地になる。
 - ・その後、平泉まで進軍し、藤原氏を滅ぼす。
 - ・藤原氏を滅ぼすことにより鎌倉幕府の地位が確立する。
- (3)阿津賀志山合戦模型（展示室）から当時の合戦のようすを調べる。
- ・当時の武士は鎧を着ている。
 - ・馬に乗っている武将もいる。
 - ・武器は弓や刀を使っている。
 - ・堀や土塁などを防御線として馬で攻められるのを防いでいる。
- (4)これまで調べたことと解説シートをもとに、阿津賀志山合戦についてノートにまとめる。
- 源頼朝は源平合戦で平氏を滅ぼし、全国の武士の頭としての地位を確立するために平泉の藤原氏を滅ぼす戦いを最後に行った。この時の激戦地は、福島県国見町に阿津賀志山防塁として現在も残されている。

授業No.14 【室町時代】

1 単元名 「独眼竜 伊達政宗のルーツを探る」

2 ねらい

- ◆壇ノ浦の合戦の後、源頼朝が鎌倉幕府の地位を確立するために行った奥州藤原氏との戦い（奥州合戦）の主戦場が福島県であったこと（阿津賀志山合戦）を知る。
- ◆合戦のようすを調べるとともに、現在も当時の堀などが現地に残って史跡となっていることを知る。

3 使用する資料

梁川城本丸主殿模型（展示室）、洛中洛外図屏風（部分：将軍家屋敷）、伊達殖宗解説シート

4 展開例

- (1) 洛中洛外図屏風（部分：将軍家屋敷）を観察し、室町時代の将軍の屋敷の特徴を調べる。
- ・大きな御殿がいくつも建てられている。
 - ・池のある庭園が御殿の中につくられている。
 - ・屋敷の入口には門がつくられている。
- (2) 梁川城本丸主殿模型（展示室）を観察し、室町時代の武士の屋敷と将軍の屋敷の特徴を比べる。
- ・伊達殖宗も将軍の屋敷に似たつくりをしている。（御殿・池）
 - ・有力な武将（大名）の間に京都の文化が広がっている。
- (3) 梁川城のあるじ伊達殖宗について解説シートから調べる。
- ・伊達殖宗は伊達政宗のひいおじいさん。
 - ・殖宗は陸奥国守護の役職についており、東北地方の武士全体をまとめる「かしら」の地位にあった。
 - ・殖宗は梁川城（伊達市梁川）・西山城（桑折町）を居城にしていた。
→二つの城がある県北地方が東北の中心地として注目される
 - ・殖宗は「塵芥集」という有名な分国法を作った伊達家当主であった。

(4)これまで調べたことをもとに室町時代の伊達氏についてノートにまとめる。

室町時代には、伊達殖宗という名前の東北の武将のかしらを務めた有力な大名が県北地方を拠点に活躍していた。

授業No.15 【安土桃山時代】

1 単元名 「福島を訪れた天下人」

2 ねらい

◆秀吉は天下統一の総仕上げとして、会津若松に乗り込み、奥羽仕置を行ったことを知る。→秀吉の天下統一は会津で総仕上げを迎える

◆会津若松において秀吉は東北地方の検地・刀狩の命令を出し、東北地方の支配を固めたことを知る。

3 使用する資料

日本地図（秀吉の転戦ルート図）、豊臣秀吉朱印状（現代語訳：東北地方の刀狩令）、秀吉が天下統一した後の県内の城配置図（蒲生氏郷所領時代の福島県内の城の配置と当時の街道を記入したもの）

4 展開例

(1)天下統一を進めた3人の武将の中で福島県に来たことがある武将はいるか、予想する。（教科書P69の天下統一地図をもとに考える）

・秀吉が福島県に来ている→秀吉転戦ルート図で確認

(2)秀吉が会津を訪れた1590年の出来事を教科書年表で調べる。

・「1590年 豊臣秀吉が全国統一する」

・秀吉転戦ルート図で会津に入る前に小田原合戦が行われたことを確認し、その後秀吉のもとでは国内で戦いが行われなかったことを確かめる。

(3)秀吉が若松で出した刀狩令（現代語訳）から分かることを読み取る。

・百姓の持っている武器はすべて没収する

・これ以降、武器を持っている百姓を発見した時は、本人だけでなく村全体の連帯責任とする。

・百姓は田畑を耕す農業に専念すること

・他所の村に勝手に引っ越した者は本の村に連れ戻す

・これらの命令に違反するものは厳重に罰する

→武器を没収して反抗できないようにし、武士と他の身分を区分した。

・江戸や蝦夷地にも会津藩の武士がいた。

(4)秀吉が天下統一した後の県内の城配置図から当時の福島県内のようすを考える。

・刀狩の実施、秀吉に反抗する大名の廃止＝地域は平和になったのではないかな？

・こんなにお城が残されているのはなぜ？

→まだ、完全に平和ではなかった→平和は江戸時代まで待たなければならなかった

(5)まとめ

豊臣秀吉は天下統一の総仕上げとして東北地方の政治の基本を決め、会津若松で東北全体に検地・刀狩などの新しい政治方針を命令した。

授業No.16 【江戸時代 1】

1 単元名 「江戸時代のふくしまの暮らし」

2 ねらい

◆農村と城下町の模型から当時の人々の暮らしを調べ、それぞれの身分の人々の暮らしを知る。

◆模型や屏風絵から当時の生活のようすに関する事柄を読み取ることができる。

3 使用する資料

四季農耕図屏風（展示室：農民の暮らしがわかる）、若松城下大町一之町町並み模型（展示室：町人の暮らしがわかる）、白河市地名表（城下町の名残がわかる）

4 展開例

(1)江戸時代には、どのような身分の人々がいたのかをふりかえる。（教科書 P82）

・武士 ・百姓 ・町人（職人） ・町人（商人）

(2)農業が盛んに行われていた村の生活のようすを四季農耕図屏風絵から調べる。

※百姓のようす

・天秤棒を担いだ百姓 ・鍬を持つ百姓 ・馬を使う百姓 ・田植えをする百姓

・えぶりを持つ百姓 ・たばこを吸う百姓 ・米を俵に詰める百姓

・武士にお辞儀する百姓

※武士のようす

・武士の家にあるもの＝火鉢、衝立、屏風、猫、お供え餅

※村のようす

・元旦参り ・神社 ・茶店 ・橋 ・桜や紅葉 ・夏祭り ・

(3) 四季農耕図屏風に描かれている農具を隣のコーナーで探し、用途を確認する。

・鍬 ・エブリ ・馬鍬

(4) 白河市地名表から江戸時代の地域のようすが分かりそうな名前を探す。

・大手町 ・馬町 ・鍛冶町 ・金屋町 ・郭内 ・八百屋町 ・細工町

・大工町 ・手代町 ・道場町 ・年貢町 ・向新蔵

※町名分布図を見ながら、城下町では身分や役割によって住む場所が決められていたことをふりかえる。

(6) 商家の集まる若松城下大町一之町町並み模型から町人の生活のようすを調べる。

・高札場がある ・火の見櫓がある ・道路の中央に水路 ・駕籠、大八車、馬

・建物の屋根が瓦、萱、木端葺き ・武士、町人、山伏 ・いろいろな店がある

(7) まとめ

百姓や町人など、江戸時代の人々は身分によってそれぞれ住む場所が決められており、武士がそれぞれの身分の人々を支配していた。

授業No.17 【江戸時代 2】

1 単元名 「会津藩校 日新館のひみつを探る」

2 ねらい

◆教科書で紹介されている会津藩校「日新館」について調べ、藩校のようすを知る。

◆県内のその他の藩にも藩校があることや、県内にもたくさんの寺子屋があったことを知る。

3 使用する資料

日新館全景絵図（展示室）、日新館説明シート、日新館童子訓（部分：現代語訳）、什の掟（現代語訳）、

4 展開例

(1)教科書で紹介されている日新館の広さを予想する。

【発問】 日新館と県営あづま球場、どちらが大きいでしょうか？

・日新館は県営あづま球場2個分の広さ

（参考：日新館 27,000 m²、あづま球場 14,000 m²）

(2)日新館全景絵図から、日新館がどのような施設だったのか、気づいたことを書く。

・プール ・天文台 ・弓道場 ・砲術場 ・武道場 ・素読所 ・大成殿

・塀で囲まれた敷地の中に建物が建っている ・入口には立派な門がある

(3)日新館童子訓・什の掟・日新館説明シートなどをもとに、藩校で学んでいたことについて調べる。

・什の掟（現代語訳）から当時の武士の心構えを読み取る

・日新館童子訓（現代語訳：部分）から武士としての心構えを読み取る

・日新館解説シートをもとに、藩校の中でどんな勉強が行われていたのかを読み取る

(4) 展示パネルから県内の藩校や寺子屋を調べる。

・各藩の藩校→自分の地元の藩校を探す

・寺子屋の数→自分の地元の寺子屋の数を調べる

(5) まとめ

福島県内でも各藩で藩校をつくり、武士の子どもたちに教育を行っていた。また、町人や農民の子どもたちも、各地につくられた寺子屋で教育を受けていた。

授業No.18 【明治時代1】

1 単元名 「会津藩主松平容保の手紙を読む」

2 ねらい

◆戊辰戦争直前の会津藩主松平容保が家老に宛てた手紙から戊辰戦争直前のようすを知る。

◆会津藩は幕府と朝廷の両方から命を受ける重要な存在であったことを知る。

3 使用する資料

松平容保書状（原寸大簡易複製品）、松平容保書状現代語訳資料、会津藩初代藩主保科正之「家訓」現代語訳（抜粋：会津藩はずっと徳川幕府に忠誠を尽くす旨が書いてある）

4 展開例

(1)明治時代の始めに起こった事件について振り返る。

・15代将軍徳川慶喜が政権を朝廷に返し、江戸時代が終わった。

・明治政府軍と旧江戸幕府軍の間で戦争が起こり、明治政府軍が勝利した。

・戦争後に五箇条の御誓文が発表され、新しい政治が始まる。

(2)松平容保書状（複製）を各班に1部ずつ渡し、ふりかえった3つの事件のどれに関係したものか

を複製品の手紙を見ながら予想する。

- ・特にヒントを与えず、手紙の読める文字を参考に自由に考えさせる。
- ・予想した根拠を交えて、予想を発表する。

(3)松平容保が家老に宛てた手紙の内容を調べる。

①書状（複製）から読める言葉を抜き書きする。

土津公、長州藩、征伐、朝廷、幕府、徳川、将軍、朝命、大砲、容保、家老

②この手紙を出した後、振り返りで確認した3つの事件のうち、どの事件が起こるか予想する。

明治政府軍と旧幕府軍との戦争（戊辰戦争）

③会津藩はどちらの軍に属していたか予想する。

- ・ヒントとして会津藩「家訓」を示す。

④書状の現代語訳を読み、わかったことを書き、発表する。

- ・会津藩は朝廷と幕府の両方から厚い信頼を得ていた。
- ・会津藩主の松平容保は京都にいた。 ※京都には天皇の御所がある。
- ・長州藩が幕府に逆らっており、幕府に従わないままであれば、容保が征伐に行くことになっていた。
- ・江戸や蝦夷地にも会津藩の武士がいた。

(4) まとめ

会津藩は朝廷と幕府の両方から厚い信頼を得ていたため、天皇の御所がある京都の警護を任されていたが、戊辰戦争の際には旧幕府軍に属して参加した。

授業No.19 【明治時代 2】

1 単元名 「安積疏水と明治の国づくり」

2 ねらい

◆日本遺産にも登録された安積疏水は、明治政府の国家プロジェクトとして進められ、地域の農業開発だけでなく、水力発電所の建設により郡山地域の紡績工業の機械化も推進され、福島県の近代化が進められたことを知る。

◆安積疏水をもとにした開発も、明治政府の殖産興業の方法に則り、外国から機械を買い、技師を招いて、製糸・紡績工場などを電力により機械化していくという方針が採用され、地域の近代化が大きく進められたことを知る。

3 使用する資料

安積疏水地形模型（展示室）、安積疏水建設関係者顔写真（展示室）、安積疏水関連施設写真（開成館・十六橋・麓山瀑布・沼山発電所：展示室）、桑野村開墾絵図（展示室）、日東紡富久山事業センター事務所写真、外国製測量機械（レベルなど：展示室）

4 展開例

(1)明治時代の近代化の3つのキーワードについて振り返り、福島県の近代化に関わる事業として安積疏水があることを知る。

- ・富国強兵 ・殖産興業 ・地租改正
- ・殖産興業＝近代的な工業を始めるために、外国から機械を購入し、外国人技師を雇い、製糸・

- 紡績・兵器製造などを官営工場を中心に進められた。
- ・明治時代に安積疏水が出来て、郡山地方の農業が発展した。
- (2) 江戸時代の郡山の農業のようすを桑野村開墾絵図から読み取る。
- ・ため池が多い→水不足
 - ・畑が多い→水が少ないため、水田が作りにくい
- (3) 安積疏水の水の取り入れ口を安積疏水地形模型（展示室）を見て予想する。
- ・近くで取水できるのは、阿武隈川 or 猪苗代湖
 - ・どうして近くの阿武隈川でなく、遠い猪苗代湖から水を取水しているのか？
→猪苗代湖、郡山市街地、阿武隈川の標高に注目させる。
- (4) 安積疏水により郡山地方の農地がどのように変化したのかを模型で確かめる。
- (5) 安積疏水建設に関わった人々や使われた機械を展示室パネルから調べる。
- ・地元の中条政恒
 - ・お雇い外国人のファンドールン
 - ・政府の大久保利通
 - ・外国製の測量機械
- (6) 沼上発電所でつくられた電気は、何に使われたのか考える。
- ・日東紡の建物写真から紡績工場の機械化に使われ、中通りの工場の機械化に大きく影響したことを知る。
- (7) まとめ
- 明治政府は福島県の近代化を進めるために安積疏水を造り、安積疏水の完成に伴って農地が拡大して農業が発展した。さらに、水力発電所で起こした電気により製糸・紡績工場の機械化も図られ、中通り地方の近代化に大きく貢献した。

授業No.20 【昭和時代】

- 1 単元名 「戦争中のふくしまの生活」
- 2 ねらい
 - ◆福島県内でも配給制度が行われており、厳しい生活が続いていたことを知る。
 - ◆当時の学用品と現在のものを比較しながら、当時の生活のようすを想像する。
- 3 使用する資料

生活必需品配給手帳（展示室）、戦時中のランドセル、戦時中の教科書、戦時中の卒業証書
- 4 展開例
 - (1) 戦時中の暮らしのようすについて学習したことを振り返る。
 - ・配給制度
 - ・学徒動員
 - ・集団疎開
 - ・軍事教練
 - ・軍国雑誌
 - ・戦時標語
 - ・戦争のために生活のあらゆる部分で制限がなされた。
 - (2) 生活必需品配給手帳の用途や使い方について予想する。
 - ・この手帳を使って、物を購入する。
 - ・お金があっても、手帳がなければ買うことができない。
 - ・配給制の中で自由に物が買えなかった。
 - (3) 学用品の比較から当時の生活を考える。
 - ・教科書、ランドセル、卒業証書＝どれも現在よりも小さい
 - ・なぜ小さいのか予想する→物資の節減→すべて小型化

→物資が不足していた当時のようすがわかる

(4) まとめ

戦時下のふくしまでも配給制度が行われており、学用品もすべて小さく作られるなど、物資を節約する生活が続いた。

【理科】～中学校理科編～

一理科の学習を深めよう～校外の施設の活用 ※理科を学ぶ場所は学校だけではない

※現行学習指導要領（H20.3公示）より、「総則」・「社会科」・「理科」・「図工工作科」・「総合的な学習の時間」・「特別活動」の「指導計画作成にあたって配慮すべき事項」に博物館・郷土資料館等の連携・利用・活用が記載されている。

→新編新しい科学1・2・3の巻末資料に郊外施設の活用をあげている。

◆授業1 福島県立博物館資料「化石」を活用した授業案

1.単元名 1年【単元4 大地の変化】 第3章 地層から読みとる大地の変化

2.章の目標 地層やさまざまな堆積岩、化石の観察をもとに、過去の環境を推定し、観察した事物を用いて理論的に思考する方法を身につける。さらに、地層の重なり方と関連づけることで環境が変化してきたことに気づかせる。そして、大地は長い時間と広い空間の中でさまざまな要因が関連しながら変化してきたことを認識させ、自然に対する畏敬の念をもつようにする。

3.指導計画 総時数9時間

単元	第3章	主な内容	時間
4 大地 の 変 化	地層から読みとる大地の変化	「before & after」1 地層の作り方	1
		2 堆積岩【観察3】	1
		～郊外学習 博物館体験学習～	1（本時）
		3 地層や化石からわかること	1
		4 大地の変動	1
		5 身近な大地の歴史を調べる	1
		【観察4】	1
		観察結果のまとめ	1
	6 地層がかかわる災害	1	

4.本時の評価

【関心・意欲・態度】 ●福島県から産出した「フタバズキリュウ」をみて化石に興味をもつ。

【科学的な思考・表現】 ●「アンモナイト」の化石を観察し、地質年代を考察する

5. 本時のめあて

○化石に興味を持ち、本物の化石を観察し地質年代を考察することができる。

6. 博物館の資料

「フタバスズキリュウ」

～骨格標本～◎教科書掲載のものと同じP262

「アンモナイト」◎世界・国内の本物のアンモナイト

7. 授業の展開

○導入 15分

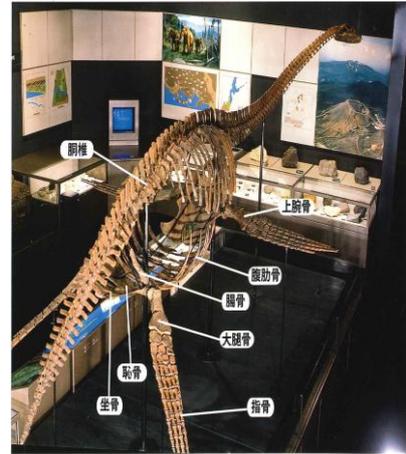
＜自然分野室にて＞

- ・「フタバスズキリュウ」の骨格標本を観察
- ・福島県で発見された時の様子を説明
- ・日本ではじめて全身骨格標本が発見された首長竜の特徴を説明

○展開 30分

＜実習室にて＞

- ・グループごとに好きな本物の「アンモナイト」の化石を選び、ヒントカードをもとに分類し名称を調べていく。
- ・なぜ、そう判断したかを記入し、選んだアンモナイトの特徴を観察していく。(分類表・図鑑)
- ・名称のわかったアンモナイトのかたちの特徴から、どのような動きをしていたか。えさをどうとっていたかを考察していく。
- ・アンモナイトが生きていた地質年代を考察する。



福島県立博物館に展示されているフタバスズキリュウ全身骨格

○まとめ 5分

- ・福島県に恐竜が生息していた同じ時期に首長竜がいたことを知る。
- ・アンモナイトは1万種類以上いること。
- ・地層に含まれていた化石から、地層が堆積した当時の環境や年代を推測することができる。

◆授業2 福島県立博物館資料「F3 福島の火山と湖」を活用した授業案

1. 単元名 1年 【単元4 大地の変化】 第1章 火をふく変化

2.章の目標 さまざまな火山の活動や、火山の形、および火山噴出物、火山岩と深成岩の観察の記録や資料の活用を通して、それらの関連性を理解する。さらに、火山の形、火山噴出物の形状、火成岩の組織のちがいを、マグマの性質や要因と関連づけて説明できるような科学的な見方・考え方を身につける。

3. 指導計画 総時数7時間

単元	第1章	主な内容	時間
4 大地 の 変 化	火をふく大地	「before&after」 1火山の姿	1
		【マグマと火山】・【マグマと火山の形】	1 (本時)
		2火山が生み出す物【観察1】	1
		【火山灰からわかること】	1
		3火山活動と岩石 【観察2】	1
		【火山岩と深成岩のつくり】【火成岩の分類】	1
		4火山活動による災害	1

4. 本時のねらい

マグマの粘性のちがいにより火山の形や噴出した溶岩の色の違いができることを知る。

5. 本時の評価

- 【関心・意欲・態度】 ○磐梯山の模型を観察し、火山の噴火に興味をもって調べようとしている。
- 【科学的な思考・表現】 ○マグマの粘性のちがいと火山の形を関連づけることができる。
- 【観察・実験の技能】 ○小麦粉の粘性のちがいによる結果の相違に気づくことができる。
- 【知識・理解】 ○磐梯山の形から、噴出した溶岩の粘性が類推できることを理解している。

6. 博物館の資料

「福島火山と湖」～F7 模型～

◎教科書磐梯山掲載P205

「磐梯山の火山噴出物」～自然分野室～



7. 授業の展開

○導入 15分

<展示室F7にて>

- ・「磐梯山」の模型を観察。
- ・1888年の磐梯山噴火時の様子を話す。
- ・磐梯山を簡単にスケッチし山の形をイメージする。

○展開 30分

<実習室にて>

- ・他の火山の姿をパネルで見て、火山でも色々な形があることに気づかせ、その原因を予想させる。

- ・小麦粉と水を用いて、水が多い、普通、少ないの3種類を班ごとに決める。
- ・混ぜ合わせポリエチレンの袋に入れ、穴をあけた発砲ポリスチレンの板に口を貼り付け下からしぼり出す。
- ・そのときの粘りけの強さと押し出されたときの小麦粉の山の形を火山に結びつけて考察する。
- ・磐梯山の形は粘りけは水が多い・普通・少ないのどれにあたるか班ごとに考え、展示室でスケッチした図から判明していく。

○まとめ 5分

- ・磐梯山の噴出物の火成岩を観察する。(自然分野室)
- ・溶岩の色とマグマの粘りには関係があることを知る。
- ・噴火のようすとマグマの粘りけに関係があることを知る。



8 博物館利用者 研修会

研修内容（例）

研修VI 「古墳時代学習の発展教材としての勾玉づくり体験」

学芸課学習支援班 主任学芸員 荒木 隆

(ミュージアムエデュケーター)

1 教科書の中での勾玉の記述

【東京書籍 新編新しい社会 6上 P21】

古墳を築くには、すぐれた技術者を指図し、多くの人々を働かせることの大きな力が必要であったと考えられています。その力の大きさは、古墳の石室の内部の様子や出土品からもわかります。……

(添付写真) 石室の様子と出土品～森將軍塚古墳(長野県千曲市)

□4 古墳からの出土品

ひすい製の勾玉、管玉、土器、鎌、朝顔形のはにわ、つぼ形のはにわ、ふたつき入れ物形のはにわ

2 学習指導要領の中での古墳時代の位置付け

『小学校学習指導要領解説 社会科編』p120・121

〔第6学年〕 2 内容

(1) 我が国の歴史上の主な事象について、人物の働きや代表的な文化遺産を中心に遺跡や文化財、資料などを活用して調べ、歴史を学ぶ意味を考えようとするとともに、自分たちの歴史的背景、わが国の歴史や先人の働きについて理解と関心を深めるようにする。

ア 狩猟・採集や農耕の生活、古墳について調べ、大和朝廷による国土の統一の様子が分かること。その際、神話・伝承を調べ、国の形成に関する考え方などに関心をもつこと。

3 「勾玉作り」の教育効果を考える

【社会科としてのねらい】

- ・きれいな勾玉を作ることはねらいではない≠図工の作品
- ・豪族が身に付けている勾玉の製作がいかに困難で貴重なものであるかを体感する

【本時の学習問題】

古墳時代の人たちは、みんな勾玉のアクセサリーをしていたのだろうか？

【授業の肝】

- ・本物の勾玉素材(ヒスイ・メノウ) = 体験用石材(滑石)の**60倍の硬さ**
体験用石材(蠟石) 200円程度で教材カタログにあり
ヒスイに近い緑色の石には篆刻用の高麗石(400円)もある
- ・体験用石材を使った勾玉製作時間 = **1時間**
本物の勾玉の製作時間: 1時間 × 60倍 = **60時間**
- ・本物の勾玉の製作にかかる時間 **勾玉1個作るのに最低でも10日**

子どもたちの学校生活時間 約6時間

学校に登校して帰るまで作業をしても $60 \div 6 = 10$ 日

- ・ヒスイの原産地は新潟県糸魚川に限定→素材の入手困難

県内では入手できない石でできた製品

☞全国に影響力を持った大和朝廷との交流がないと入手できない

県内の遺跡からは今のところ勾玉を作った工房などは発見されていない

☞大和朝廷から配布された貴重品

- ・現代だとどれぐらいの価値？

削るだけで 福島県の最低賃金689円 ≈ 700 円 $\times 6$ 時間 $\times 10$ 日 $= 42,000$ 円

勾玉作りは専門の職人が作っていたので時給を2倍と考えると

$$42,000 \text{円} \times 2 \text{倍} = 84,000 \text{円} \dots \dots (1)$$

ヒスイ原石 透明度や色合いで値段は大きく違う 最低でも約10万円以上

古墳から出土するきれいな色のものは2倍以上の価値がある

$$10 \text{万円} \times 2 \text{倍} = 20 \text{万円} \dots \dots (2)$$

※ヒスイ勾玉1個の現代の値段 (1) + (2) = 8万4千円 + 20万円 = **約30万円**

☞ひすいの勾玉1個だけで**約30万円**

☞**勾玉3個で軽自動車1台分の価値** = 相当貴重なもの

【授業のまとめ】

- ・勾玉や管玉は非常に高価なものであり、だれでも入手できるものではない
- ・勾玉と管玉をたくさん身につけている豪族 = 特別な人



※教科書に出てくる「豪族が身につけている勾玉」に関する知識を自分の体験を通じて実感する授業として展開

4 勾玉作り体験 時間配分例

①既習事項の確認と導入	10分	
②準備品確認・型取り	5分	
③穴あけ	5分	
④外削り	15分 (5分×3)	
⑤内削り	15分 (5分×3)	
⑥全体粗磨き	10分	
⑦艶出し磨き	10分	
⑧片づけ	10分	
⑨紐付け	5分	
⑩まとめ	5分	

計 90分 (2単位時間)

勾玉のつくり方

① 鉛筆で形と孔の位置を描く。
あな

② キリで紐ひもを通す孔を開ける。

④ 角を丸くする。

③ 80番の紙ヤスリで形の外側を削る。

⑤ さらに滑らかに削る。
80番→240番

⑥ 1000番の紙ヤスリで丁寧に磨いて完成。

凹んでいる部分は棒に紙ヤスリを巻きつけて削る。

1 教科書に登場する弥生時代像

【使用した教科書】東京書籍 『新編 新しい社会6上』

P10

- ①米づくりは今から約2300年前に大陸から日本に伝わってきた。
- ②西日本を中心に米づくりが広がる時代を弥生時代と呼ぶ。
- ③弥生時代のむらの人々は、指導者を中心に力を合わせて米づくりに取り組んでいた。

P11

- ④遺跡から実際に米が出土している。
- ⑤弥生時代には縄文時代と違う弥生土器が使われていた。
- ⑥米づくりは約1万年前に中国で始まり、さまざまなルートを通して伝わった。
(朝鮮半島を経由して日本に伝わるルートが有力)
- ⑦弥生時代になると米づくりに対応した石器(石庖丁)や木器(鍬)が登場する
- ⑧現在と同じように春・夏・秋・冬のそれぞれの季節ごとに農作業が行われていた。

P18

- ⑨1～3世紀ごろの弥生時代後期になると堀や柵で囲まれた環濠集落が存在する
- ⑩佐賀県吉野ヶ里遺跡では集落のまわりを大きな二重の堀や柵で囲っている
- ⑪食料や種もみ、田や用水、鉄の道具をめぐる、むらとむらの間で争いが起こる
- ⑫むらの指導者が強い力を持ってむらを支配する豪族になる
- ⑬豪族の中からまわりのムラを従えてくにをつくる王が登場する
- ⑭矢じりがささったまま葬られた人骨がある＝争いがあった
- ⑮死者は大きな甕の中に入れて葬られている

P19

- ⑯米づくりが広まったころ、朝鮮半島から日本列島に渡ってきて住みつく渡来人が大勢いた。
- ⑰渡来人は建築、土木工事、焼きものなどの進んだ技術や文化を日本にもたらした。
- ⑱渡来人は中国や朝鮮半島の人で、養蚕・機織り・鍛冶などの技術や、筆・紙・酒などを作る方法、漢字や仏教などを新たに伝えた。
- ⑲島根県で発見されたものと同じ鋳型で作られた銅鐸が吉野ヶ里遺跡でも使われていた。
- ⑳吉野ヶ里遺跡の人たちは中国や沖縄、出雲地方(島根県など)と交易していた。
- ㉑各地の王や豪族は渡来人の技術や文化を積極的に取り入れ、くにづくりに役立てた。
- ㉒大陸からは中国製の貨幣、鉄製品(小刀など)、青銅製銅剣などが輸入された。
- ㉓国内では管玉、巴形銅器、南海の貝で作った腕飾りなどが流通していた。

- ②④倭（日本）国は男性が治めていたが、争いが続いて卑弥呼が治めるようになった。
- ②⑤卑弥呼が治めていたのが邪馬台国で 30 ほどのくにを従えていた。
- ②⑥卑弥呼が住む宮殿のまわりには、櫓や柵が巡らされ、兵士が嚴重に警備していた。
- ②⑦卑弥呼が中国に使いを送り、倭王の称号と織物・銅鏡などをもらった。

2 教科書資料の補足

◆P10【写真：空から見た板付遺跡】

板付遺跡は日本における稲作農耕の開始について重要な問題を提起するとともに、弥生時代の人々の生活や社会を解明するのに、集落、墓地、生産地（水田）が一体となって把握できる数少ない遺跡であることから、1976年に国史跡に指定されている。

福岡空港の南西近く、ビルと住宅街の中に当時の姿で弥生時代前期の環濠集落が復元されており、環濠の内部には竪穴建物と高床倉庫も復元されている。

この遺跡のある福岡平野のやや東寄りの中心部は、周辺に弥生時代の著名な遺跡が集中する地域で、『魏志倭人伝』に登場する「奴国」の中心部と考えられている。

1951年から断続的に調査が進められており、1978年には日本最古の水田が発見されている。

早期の集落の全体像は不明であるが、前期になると濠に囲まれて区画された集落（環濠集落）が登場する。環濠は南北 110m、東西 81m の卵形をしており、北西部には内部を 2 分するように直線的な濠を配置している。直線の濠で囲まれた狭い部分には貯蔵穴が集中しており、貯蔵穴の中から完形の壺や甕が出土することから、種籾の貯蔵用施設と考えられている。

濠の幅は最大 6 m、深さ最大 3 m で濠の両側に掘り上げた土を積んで土塁としていることがわかる。濠は西側 1 ヶ所に切れ目があり、この部分が環濠集落の出入口と考えられる。

前期に作られた環濠は中期には埋まっており、中期には環濠を伴わない集落として継続されている。

発見されている水田は弥生早期（突帯文土器）～前期（板付 I 式土器）のもので、その他に炭化米、水田を耕す鍬・土をならすエブリ・石斧や鍬の柄などの木製品、石庖丁や大型蛤刃石斧などの大陸系の石器などが出土している。

早期の水田は幹線水路（幅 2 m、深さ 1 m）の 30m ごとに井堰を設置し、堰を設けて水口として、水を取り入れている。幹線水路から 5 m ほどの間隔で平行して畦畔が設けられているが、前期になると大規模な水路（幅 10m）になり、水田の幅も約 10m に広がる。

前期の水田は厚さ 20 cm の洪水砂に覆われており、大洪水により一瞬で水田が埋没したことがわかる。そのため、前期の水田面には多数の足跡が残っており、足跡の観察から農作業は裸足で行っていたことがわかる。

◆P11【写真：弥生土器】

写真で掲載されている土器は板付遺跡から発見された弥生土器で、弥生前期の板付 I 式土器と呼ばれるものである。

写真左から、甕、壺、大型壺、鉢という器の種類で、これらのセットが弥生土器の標準的な器の種類となっている。（甕：煮炊き用の土器、壺：種籾などの貯蔵用の土器、鉢：食事用の土器）

板付 I 式土器はこれまで弥生時代最古の土器とされてきたもので、以後の弥生土器の基本形とな

るものと評価される土器群である。(いわゆる遠賀川式土器)

◆P11【写真：石庖丁】

大陸（朝鮮半島）から稲作といっしょに日本に伝わった石器で、稲の穂を刈り取る時に使う道具である。稲の穂先を茎の部分から掻き取る作業に使ったため、刃先の部分にコーングロス（イネ科植物を切った時にできる独特の輝き）が付着している。

◆P11【図：米づくりの伝わった道】

遺伝子分析の結果、東アジアの米は長江（揚子江）流域が原産地であることが分かっている。長江から日本への伝播のルートは朝鮮半島を経由する間接ルート、東シナ海を横断する直接ルートの大きく二つのルートが考えられている。

稲作に伴う石器や土器などの中に朝鮮半島由来のものが多数見られることから、現在は朝鮮半島経由の間接ルートが有力と考えられています。

しかし、稲の遺伝子分析の結果では、朝鮮半島出土の米とは違った遺伝子配列のものが日本で発見されていることから直接ルートが無かったわけではなく、渡来ルートは複雑であったと考えられる。

◆P11【図：米づくりの様子（想像図）】

<春>

①水田は縁に矢板が打たれ、畦が崩れにくくなっている。

☞水漏れを少なく効果もある

②水路から堰を作って水を引いている。

③水路から水を取り入れる取水口の近くでは豊作を願う祭りが行われている。

☞取水口の近くなどからまとまって土器が発見されることがある。

③田起こしをして田植えの準備をしている。

④田起こしの終わった水田に水をはっている。

⑤水をはった水田をエブリで平らに均している。

⑥田植えをしている。

田植えの仕方には、現在大きく2種類の考え方が示されているが、まだ決着が付いていない。

☞「種粃を直播する方法」と「苗床で育てた苗を植える方法」

☞この図は苗床で育てた苗を植える方法を想定して描かれている・

・水田の一部を区切って苗代にする。種粃を蒔いて苗を育てる

↓

・育った苗を田植え用に摘みとる

↓

・苗代から採った苗を使って田植えをする。

⑦農作業の指示を出す指導者が描かれている。

⑧指導者は腰に剣を差すなど、持ち物が他の人と違う。

・指導者のお墓からは、生前身に付けていた特別な品物が発見される。

⑨鳥や亀は銅鐸にも描かれており、身近な動物だった。

☞銅鐸は豊作を祈る祭りに使われた道具と考えられており、これらの動物も豊作に関係するものとして弥生人に認識されていたと考えられる。

☞おそらく田植えが始まる春の訪れを示す生き物という意味か？

<夏>

⑩田の雑草とりが行われている。

<秋>

⑪石庖丁を使って稲刈りをしている。

⑫稲刈りは穂先だけを刈っている。

☞品種改良が進んでいない。種籾を直播している。

☞1枚の水田の中でも稲の成長がバラバラ

☞実った部分だけを刈り取る＝1枚の水田で何度も稲刈りを行う。

⑬すべての収穫が終わった田んぼの稲（穂先より下の部分）を燃している。

☞水田の整理、焼いた灰は肥料分になる

<冬>

⑭収穫が終わって残された稲も燃やされたため、何も生えていない水田

☞次の春先まで水田での農作業はない

3 ふくしまの弥生時代に関するQ&A

Q) 福島県内で発見されている弥生時代の水田はありますか？

A) いわき市番匠地遺跡☞谷部に形成された弥生時代中期の水田（約2000年前）

☞吉野ヶ里遺跡の環濠集落が形成されはじめたころ

Q) 福島県内でも板付遺跡と同じころ（弥生時代前期：約2300年前）の遺跡はありますか？

A) 石川町鳥内遺跡、霊山町根古屋遺跡、会津若松市墓料遺跡、三島町荒屋敷遺跡などからこのころのものと考えられている土器が発見されている。（遠賀川系土器）

これらの土器は当時のお墓から発見されており、近くのムラが発掘されていないため、どのようなムラや水田があったのかは不明のままです。

Q) 板付遺跡のころの水田は、東北にありますか？

A) 青森県弘前市砂沢遺跡では遠賀川系土器を伴う水田跡が発見され、東北にも弥生時代前期の水田があることが証明されました。福島県内では、前期の水田はまだ発見されていません。

Q) 弥生時代も石器を使っていたのですか？

A) 弥生時代の後半になると石器が少なくなりますが、前半にはいろいろな石器が使われています。

【縄文時代から使っている石器】石鏃、石錐、石匙＝縄文時代の伝統・継続

【弥生時代に登場する石器】石庖丁、大型蛤刃石斧、扁平片刃石斧、ノミ形石斧、抉入打製石器

※東北地方の弥生時代は、縄文時代の文化を全て捨てて、新しい弥生文化をまるごと受け入れるのではなく、縄文時代の伝統を色濃く残しながら、新しい大陸の文化を上手に取り入れて暮らしを変化させていたと考えられる。

Q) 石庖丁は、それぞれの集落で作っていたのですか？

A) 石庖丁は板状に割れやすい石（粘板岩）でないと作れない石器です。そのため、素材になる石が手に入らない地域では作ることができません。福島県内で良質の粘板岩が取れる地域は南相馬市周辺です。おそらく南相馬市周辺で作られた石庖丁が周辺に流通していたと考えられています。

Q) 福島県内で石庖丁が作られたことがわかる遺跡はありますか？

A) 南相馬市鹿島町天人沢遺跡では、200点以上の石庖丁が採集されています。採取されたものを見ると石庖丁を作る各段階のものが含まれていることから、石庖丁を製作した場所ではないかと考えられています。→素材を入手しやすい場所で集中生産していた可能性が考えられます。

Q) 福島県内でも板付遺跡のように木製の農耕具を使っていたのですか？

A) 仙台市中在家南遺跡や高田B遺跡では中期（約2000年前）の木製農具（鍬、鍬の泥除け、鋤、掘り棒、堅杵など）などが発見されています。

福島県内ではまだ中期の木製農具は発見されていませんが、福島県でも同じように使われていたと考えられています。現在のところ弥生時代の木器が発見されているのは湯川村桜町遺跡だけで、後期（約1700年前）の農具（掘り棒、鍬）が発見されています。

Q) 福島県内でも吉野ヶ里遺跡と同じように鉄器が出土している遺跡はありますか？

A) 福島県内で現在のところ、弥生時代の鉄製品が発見されている遺跡は2ヶ所あります。発見されている鉄製品は銚（中期後半：いわき市白岩堀之内遺跡）と小刀（前期末：須賀川市松ヶ柵A遺跡）です。

おそらくこの他にも鉄製品はあったと思いますが、鉄は錆びて朽ちてしまいますので、どのくらい使われていたのかについては、はっきりとは分かりません。現在発見されているものは、偶然に朽ち果てなかったために形が残ったものです。

Q) 福島県内でも吉野ヶ里遺跡と同じように青銅器が出土している遺跡はありますか？

A) 福島県内では青銅器が発見された遺跡は、現在のところありません。

Q) 福島県内の弥生人は、この他に、どのような材料を道具に使っていましたか？

A) 縄文時代と同じように動物の骨や角を使って道具を作っていました。牙製の矢じり、骨製の釣り針・銚・ヤスなどが遺跡が発見されています。福島県の弥生人は縄文時代の伝統を引き継ぎ、海獣や大型魚を対象とした漁労活動を行っていました。

Q) 渡来人が機織りを伝えた教科書に書いてありますが、福島県内でも機織りが行われていたのでしょうか？

A) 県内の弥生時代の遺跡からは土製紡錘車という糸紡ぎの道具が出土しています。このことから紡いだ糸を使って福島県内でも機織りが行われていたと考えられています。

Q) 福島県内でも吉野ヶ里遺跡のような環濠集落があったのでしょうか？

A) 現在のところ福島県内では吉野ヶ里遺跡のような環濠集落は発見されていません。発掘調査された弥生時代の集落の数が少なく、弥生時代の集落のようすはまだ分からないことが多いです。
現在のところ、福島県内で確認されている弥生時代の集落はいずれも竪穴建物2～3棟で構成される小規模な集落だけです。

Q) 福島県内でも吉野ヶ里遺跡と同じように甕棺というお墓が作られていたのでしょうか？

A) 吉野ヶ里遺跡で発見された甕棺は九州地方を中心に流行したお墓で、東日本の福島県では発見されません。福島県では、弥生時代のはじめには再葬墓、中期になると土器棺墓・土坑墓、後期になると方形周溝墓というお墓が流行します。弥生時代には時代とともにお墓の作り方に変化がでてきます。

Q) 再葬墓とは、どのようなお墓なのでしょうか？

A) 再葬墓は東海から関東、中部高地、東北南部まで広がるに広く分布しており、その中でも福島県に多く見られます。大きな穴の中に骨壺がいくつも入っているお墓で、骨壺の中に入っている骨には焼けているものと焼けていないものがあります。

Q) 再葬墓の調査から、どのようなことがわかるのですか？

A) 伊達市霊山町根古屋遺跡の再葬墓から発見された土器の中から焼けた骨が出土しています。この再葬墓の近くから大量の焼けた骨が発見されています。焼けた骨の分析から、この骨は軟質部が残っている状態で900℃以上の強い火で焼かれていると推定されえています。

また、発見された骨の重量や部位の分析から100～200人の人骨が焼かれた可能性があることがわかりました。福島県の弥生人には火葬された人がいたことがわかります。

一方、須賀川市牡丹平遺跡から発見された再葬墓の土器の中から発見された人骨は焼かれていない。

Q) 焼かれた骨からは、その他にどんなことが分かりますか？

A) 焼かれた骨の中からは、手足の骨や歯に穴をあけた装身具が発見されています。これは亡くなった人の遺体を火葬する時に身に付けていたものがいっしょに焼かれたためと考えられます。このような焼けた人骨のペンダントは、弥生人が亡くなった肉親の骨の一部を身に付ける習俗があったことを示していると考えられています。

Q) 土坑墓や土器棺墓とは、どんなお墓ですか？

A) 土坑墓は地面に穴を掘ってその中に遺体を葬る縄文時代のはじめから行われている埋葬方法です。土器棺墓は一つの穴の中に骨壺（土器）を1個埋めるお墓で、縄文時代の後半から登場するものです。土坑墓は大人のお墓、土器棺墓は乳幼児のお墓と考えられています。

Q) お墓の出土品から何がわかりますか？

A) 弥生時代のお墓を発掘すると、お墓によって出土品に違いがあったり、出土する数が違ったりします。

天神原遺跡（檜葉町）では、土坑墓 47 基と土器棺墓 24 基が発掘されていますが、勾玉が出土した墓は 2 基だけでした。しかもこの 2 基のお墓から合計で 84 個の勾玉が出土しています。

平窪諸荷遺跡（いわき市）では土坑墓 308 基と土器棺墓 8 基が発掘されていますが、出土品が発見されたのはそのうち 22 基の土坑墓だけです。出土品には管玉と石斧という貴重なものがあります。

以上のことから、特別なものを持つ人物、特別なものをほぼ一人で独占している姿がわかります。おそらく周辺のムラをも従えるような強い力を持った豪族が生まれてきたことが想像できます。

Q) 吉野ヶ里遺跡ではきれいな管玉が出土していますが、福島県内でも弥生時代の管玉や勾玉が出土するのですか？

A) 吉野ヶ里遺跡から出土している管玉はガラス製ですが、福島県内ではガラス製管玉は現在のところ発見されていません。県内の弥生時代の遺跡から出土する管玉は凝灰岩製の管玉で天神原遺跡（檜葉町）、一ノ堰B遺跡（会津若松市）、平窪諸荷遺跡（いわき市）などで出土しています。

勾玉も天神原遺跡（檜葉町）、一ノ堰B遺跡（会津若松市）などで出土しています。勝口前畑遺跡（福島市）からは弥生時代の勾玉製作工房も発見されており、地元の石材を使って勾玉や管玉も作られていたことがわかります。

Q) 方形周溝墓とは、どのようなお墓ですか？

A) 方形周溝墓とは、四辺に溝を掘り、溝の内側に土を盛り上げ棺を埋めるお墓で、弥生時代前期に近畿地方で出現し、東北南部から九州まで広く分布します。

福島県内では弥生時代の終末～古墳時代の初めに登場し、舘ノ内遺跡（喜多方市塩川町）・屋敷遺跡（会津若松市）・稲荷塚遺跡（会津坂下町）・桜町遺跡（湯川村）・平窪諸荷遺跡（いわき市）などが知られています。

このお墓からは、地元福島県の土器に混じって北陸や東海地方など他地域の特徴を持つ土器が出土することから、弥生時代の終わりごろには福島県の人々と他地域の人々が盛んに交流していたことがわかります。

【参考文献】

- ◆『ふくしまの曙 ー旧石器時代・縄文時代・弥生時代ー』歴春ふくしま文庫 49
藤原妃敏著 歴史春秋社
- ◆『弥生時代の歴史』藤尾慎一郎著 講談社現代新書
- ◆『<新>弥生時代ー500年早かった水田耕作ー』吉川弘文館歴史文化ライブラリー
329 藤尾慎一郎著 吉川弘文館
- ◆『農耕社会の成立』シリーズ日本の古代史① 石川日出志著 岩波新書